

20th Anniversary
Commemorative Publication
Ichiro Saito

20th Anniversary Commemorative Publication

Department of Pathology
Tsurumi University School of Dental Medicine

齋藤一郎教授就任20年・退任記念誌
鶴見大学歯学部 病理学講座

巻頭言に代えて

鶴見大学歯学部での活動 20 周年を目前に、これまでの研究・教育活動に一区切りをつけることにした。心理学者のユングによると「人生は山登りに似ている。登った限りは下山しなければならない。登りっぱなしでは“遭難”になる」ということらしいので、一度ここまでの活動を整理し、また違う山に登ることにする。“遭難”を避けるために。

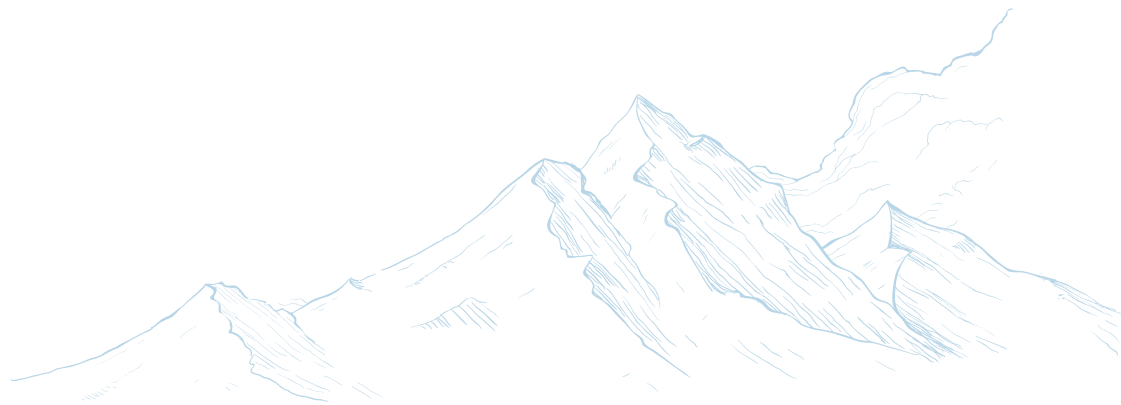
この冊子は記念誌という体裁を取っているが、美辞麗句を並べたり、後づけの美談や苦労話で自身の過去を振り返ったりすることはやめようと心掛けた。当然のことながら自分は決して歴史に残るような研究者ではないし、もし自分がこの世界に存在していなかったとしても、医学研究の歴史にはなんら違いはないだろう。

しかしそれにも関わらず、自分のような末端の研究者がそれぞれの片隅を地道に築きあげることが、今あるような希望や奥行きを獲得してきたはずだと、そう自分に言い聞かせながら仕事を続けてきた。

教員生活の中では、少なくない人たちと出会い、過ごし、送り出してきた。日々、微に入り細を穿つサポートで支えてくれた教室員、研究仲間、連携する企業や組織の方々——私が愛する人たち、私を愛してくれる人たち、そして私が傷つけてしまう人たち、私を傷つける人たち——多くの人たちとのコミュニケーションを通じて、数少ない信頼関係も生まれたように思う。いまになって気づいたが、信頼関係とは「この人なら絶対に自分を裏切らない」と自分が信じられる関係というよりも、「この人になら裏切られてもいい」と思えるような関係なのかもしれない。

多くの出会いの中には、様々な理由で会えなくなった人もいるし、いつでも会える、いつかは会えると思いつつも、まだ再会できていない方もいる。そのような不義理をしてしまった方々と、そしてこれからの時代を生きる若い人たちに、この記念誌を贈りたい。

齋藤 一郎



Hiroshi Saito

Profile

1954 年東京生まれ。
松本歯科大学卒、日本大学歯学部助手、
米国スクリプス研究所 博士研究員、
東京医科歯科大学難治疾患研究所助教授、
徳島大学歯学部助教授などを経て
2002 年より鶴見大学歯学部教授。
2008 年より同大附属病院長（4 年間）。

「エミールと探偵たち」などで有名なドイツの児童文学作家エーリッヒ・カストナー（1899-1974）の詩の一節に、このような言葉がある。

*Liebe das Leben, und denk an den Tod!
tritt, wenn die Stunde da ist, stolz beiseite.*

人生を愛せよ、死を思え。時が来たら誇りをもって、わきへどけ。

2002年に今の大学に着任し、教育と研究の世界に身を置いてから20年近くが経った。しかるべき時が来たら、次の世代に道を譲らなければならないのだが、道をスムーズに譲るためには、何をどのような形でできるだろうか。いつからかそのようなことを考えるようになった。

振り返ってみれば、研究とは長きにわたって自ら立てた仮説と向き合い、格闘し続け苦しみに耐えることでもあるように思う。不安、焦燥、劣等感、欲求不満といった、様々に沸きあがってくる感情。研究はそれらと戦い続ける気の遠くなる

ような日々だと言ってもよいだろう。しかしこの過程で自ら調べたり悩んだり考えたりしたことは、自身の思考を支える背骨となって毎日の生活を下支えしてくれる資産になった。またその苦しい過程の末、幸運にも得られる鋭い喜びは、何物にも替え難い。この醍醐味を知らなければ、延々と考え続けることは難しかったと、自身を振り返っている。

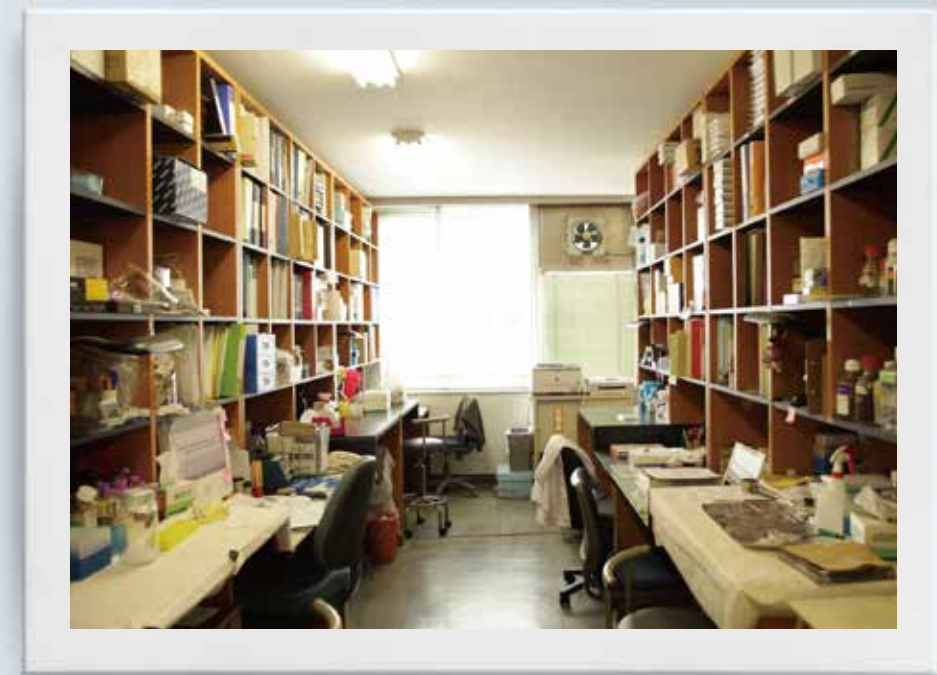
だから研究というものの面白さを学生やスタッフに知ってもらうこと、そして才能ある者を見つけたら、それを引きだして世に出していくことが、先に生まれた者の務めだと考えてきた。当然、相性

もあるからいろいろ難しいこともある。その中で特に注意してきたのは、学ぼうとする者や、新たな道を開拓しようとする者の邪魔だけはしてはいけない、ということだ。それだけは私がこの仕事を始めてから、強く心に誓ったことである。

社会学者の小熊英二氏が、ある対談でこんなことを言っていた。

「未来で評価される人が若者、現在で評価されるのが大人、過去で評価されるのが老人」。

まだ未来があると期待されるような若いうちはうまくいくが、そのような期間はそれほど長くはない。さらに人は子どものころから「自由に生きろ」「夢を持って」と言われながら育つが、実際に社会で思い通りに生きられる人はむしろ少数派だ。もし目の前にいる若者が次の一步の踏み出し方で悩んでいるのなら、その決断に自分の経験したことが少しでも役立てば嬉しい。この10Storiesの「昔話」の中に、わずかでも未来への糧を見出してもらえれば、望外の喜びである。



Story-2

“ありのままの自分なんて”

「自分の好きなように生きればいいじゃない」といういかにも正義のようなメンタリティには、そこに傲慢さの気配を感じ、あまり好きではない。世の中、体裁や対面を繕って格好つけるから粋なわけ、見栄やしらがみから解放されたいなどと望んだ瞬間、人生「負け」なのだと江戸っ子気質の父親から教えてもらって以来、今でもそう思いながら生きている。

自分や他人から課せられた責任や役割、天から与えられた格差や限界、できれば棚に上げたい不平、不都合、不条理、理不尽・・・日々生きていけば様々な壁にぶつかる。その時に感じるありとあらゆる自身の弱さをすべて受け入れた上で生きていく。それが本当の意味での「あ

りのまま」だと思う。自分らしさやこだわりなんて、その先にあるものだ。

では毎日どのように過ごすべきなのか。それは感情を思うがままにさらけ出すのではなく、できるだけ笑顔を手掛けることだと考えている。つまり生きていく以上、ほかの誰とも関わらない人生は通常無いわけで、他人と過ごしているあいだは、できるだけ笑顔でいたほうが良いということだ。

しかし人は大抵何らかのストレスを抱えながら日々の生活に追われているため、いつも笑顔でいようと意識していてもなかなか難しいことが多い。多くの壁にぶつかりながら感情の赴くままに過ご

していれば、怒りや苦惱ですぐに眉間にシワが寄り、口はへ字に曲がってしまうものだ。

そのような時に、どうすれば笑顔になれるのか？そこには逆の発想が必要だということが、これまで自身も携わってきた最近の研究で明らかになってきた。つまりその時の感情はともかく、まずは意識的に口角をあげて笑顔になることで、気持ちのよい感情が引き起こされる、ということだ。fMRIでの解析でも、微笑みを浮かべるだけで前頭前野の血流が増えることが分かっている。つまり「楽しいから笑う」だけでなく「笑っていることで、だんだん楽しく、幸せな気持ちになる」ということだ。

このように心のあり方は、口角をあげてニコリすることで意識的に変えることができる。笑顔を意識し、自身の感情とは無関係に笑顔で体面を繕うことで、気持ちよい感情が引き起こされる。そしていつも良い笑顔で機嫌よく過ごしていれば、周りにも人が集まってくる。「笑う門には福来る」の故事成語が医学で検証された、と言っても良さそうだ。

10 Stories

Story-1

“時が来たら”





Story-4 “上機嫌は人間の第一の義務”

人が自分ひとりの力のできることなど、たかが知れている。だから誰かの力を借りたり、互いに助け合うことが必要だ。そして誰かの力を借りられるかどうかは、結局は相手との信頼関係があるか否かに掛かってくる。人の力を借りるとは、一言でいえば相手の時間を分けてもらうということだからだ。

こころよく時間を分けてもらうにはどうするか。それは自分が機嫌よくいることだ。仏頂面をしていれば相手も不快な気分になり、コミュニケーションロスが生まれ何のメリットも無いからだ。

「上機嫌は人間の第一の義務だ」と言ったのは、フランスの哲学者アラン(エミール=オーギュスト・シャルティエ)だ。その著書「幸福論」では次のように書かれている。

たまたま道徳論を書かなければならないとすれば、わたしは上機嫌ということに義務の第一位におくだろう。上機嫌というのは実に気前のいい奴なのだ。上機嫌は、何かをもらおうというのではなく、むしろ人に与えている。

なるほど、われわれは他人の幸福を考えねばならない。その通りだ。しかし、われわれが自分を愛する人たちのためになすことができる最善のことは、自分が幸福になることである。このことに人はまだあまり気づいていない。

機嫌よく安定した気分で過ごせば、結果的に毎日の生活や仕事でのストレスが減りうまく回っていくと実感しているが、その因果関係は医学的にも明らかになっている。人の感じるストレスは、その原

因の多くが「上司や部下との人間関係」「睡眠の質の悪さ」による、という調査結果もある。日常の人間関係で大きなストレスを感じれば、寝つきが悪くなったり眠りが浅くなったりなどして睡眠の質が悪くなる。睡眠不足になれば、次の日の日中の体調にも差し障るなど、さらなる不調に繋がっていく。そうしていつの間にか簡単に、負のスパイラルに絡め取られてしまうことを自身でも体験してきた。

だからなるべく機嫌よく過ごして、良い睡眠を取れるように心がけてきた。そうしてきたから仕事もプライベートもなんとかやってくることができたのだろう。だから「上機嫌は人間の第一の義務だ」という言葉を知ったときに、なるほどと腹落ちするものがあった。

Story-3

“Vision and Work hard”

最近、海外留学する学生が減っているとかよく耳にする。留学に憧れても、リスクを考えてしまうと不安が勝ってしまい、結局「いつかの夢」としてあきらめてしまうのだと言う。しかし憧れのままにしているだけでは何も進まない、自身を振り返って考えるようになった。

すべての結果は「かつて思ったこと」だとこの歳になって感じている。だから若い人達には、何かに憧れたり理想像を思い描いたりする経験を、ぜひ大切にしたいと願っている。それが成長への道筋をつくり、多くの成功や失敗を経るなかで磨き上げられながら、自身を支える価値観になっていくからだ。憧れを現実にしていこうとすると、周囲の意見や自身の弱さと戦わなければいけない時もある。しかしそのような経験から、むしろ戦わずして得られる成果などないのではないかと考えるようになった。

好きな言葉のひとつに、山中伸弥教授が実践する Vision and Work hard 一

一略して“VW”という言葉がある。夢を夢で終わらせないためには、誰よりもストイックに努力することが必要、ということだ。自分の想いや夢を具体的に描き、それを実行し続け、初めはぼんやりとした希望がいつか具体的な成果に結びつくまで、何度も試行錯誤しながら取り組み続ける、ということだと理解している。

大切なのは自分が何をしたいのか、何を大事にしていきたいのかを知ることだと思う。それを持っていなければ、目の前にチャンスがきても気づくことができない。19世紀の細菌学者レイ・パスツールは「Chance favors only the prepared mind. (偶然は準備された精神にしか微笑まない)」と言った。想いを胸にコツコツと準備してきた人だけが、あたかも偶然発現したかのように見える幸運をモノにできる。だからいつも憧れを心のなかに持ち、その実現を信じながら自身の役割を粛々と日々果たしていくことが大切のような気がする。



Story-5 “Communication”

人は生まれながらにして、誰かと関わり合いながら生きる社会的存在だ。そして「誰かのために」何かをすることを喜びと感ずるように、心の報酬系ができていく。アメリカの思想家であるラルフ・ウォルド・エマーソンは、「人生の成功は他人との関係性にこそある」と謳っているが、この言葉に出会った時はとても感動した。

「成功とは」

よく笑うこと
知性ある人々からの尊敬を得ること、
子どもたちから好かれること、
良い評論家に認められ、
うわべだけの友人の裏切りに耐えること、
美しいものを理解し、
他人の良いところを見つけること、
この世を少しでも良いものにして去ること。
それは子どもの健康や、
庭の手入れ、社会問題の改善でも良い。
そして、たった一人でもいいから、
あなたが生きていてくれてよかったと
思ってくれる人がいるということを知ること。
それができたら、人生は成功だったと言える。

優秀でさえあれば周囲に支えてもらえた時代はとくに終わったと思っている。自身のコミュニケーション能力を駆使して他人との関係を築き、承認してもらえるようにならなければ、この混沌とした社会で生きていくことは難しいのではないかと考えるようになった。教育研究職に身を置く者としても、できる限りバックグラウンドが異なる人々と交流することは、仕事を進めるうえで重要になる。多様な価値観や視点に触れることが、問いへの気づきや、様々な発想を生み出す原動力になるからだ。

ところがこの激変する社会にあって、限られた狭い世界の中でしか自身の恒常性を保てない学生が増えたように感じている。コミュニケーション不足からか、些末な出来事のように思えることにも過敏に反応し、人間不信に陥って身動きが取れなくなったりしている彼らを見てみると、やや心配になることがある。



コミュニケーション能力を育むには、同世代だけでなく世代や背景の異なる人たちとできるだけ関わることが必要で、学生時代はその絶好の機会だと思う。何事においても、難しいことや辛い場面に遭った時にそこからどう這い上がるか、どう克服するかで力が付くと実感しているが、それは人間関係を築くうえでも同じだ。いくら親や教員が子どもにコミュニケーション能力を身に付けさせたいと願っても、それだけは与えることが難しい。



Story-6 “Second Nature”

自分のありたい姿で毎日を過ごすには、少し努力が必要だ。そして常に理想的な自分でいようとして発想や言動に留意していれば、次第にそれが習慣になり、あたかも生まれつきそういう性格だったかのように、当たり前ものとして身についてくるのではないかな。

何かを習得するコツは、何度も練習して、第二の本能としてあたかも元々備わっていた素質であるかのように、正確に動けるようになるまで繰り返すことだ。つまり自分の潜在能力のなかに眠る Second nature を呼び覚ますということだ。

そう言ったのは、マグジーという愛称で愛されたアメリカの元バスケットボール選手のタイロン・ボークスだ。彼によると試合で勝つための理想的な動きや瞬発力は、試合中に培われるものや天性のものではなく、あくまでも普段の練習量にあるという。

当たり前のようだが、スポーツのテクニックに限らず、思考や行動の習慣も、やはりとにかく何度も反復することで、理想的なものに近づけることができるよ

うになる。試合、つまり勝つか負けるかの緊張感やプレッシャーのかかった場面では「次どう動こうか」などと悠長に考えたり迷ったりする暇はなく、瞬時の反射神経が重要なのだ。だから技（あるいは瞬時の判断）があたかも昔から備わっていたかのように本能的に出てくるまで、何度も同じような場面を想定し、身体に覚え込ませなければならない。同じ動作を繰り返すのはつまらないし、続けることは苦しくもある。しかしそれをやり続けられ、いざという時に本能的に身体が反応できるようになるし、それによって今までできなかったことを、まるで当たり前のように突破できるようにもなるかもしれない。

そしてまた同時に、そんなふうに取り組んでいけば、「量がいつしか質に変わる」瞬間を必ず誰かが見てくれるものだ。時には助けてくれたり、次の次元に引き上げてくれたりすることもある。だから継続していれば大抵のことは何とでもなってしまうものだと、自身の過去を反省しつつ、今やっとならぬように考えられるようになってきた。

Story-7 “Independency”

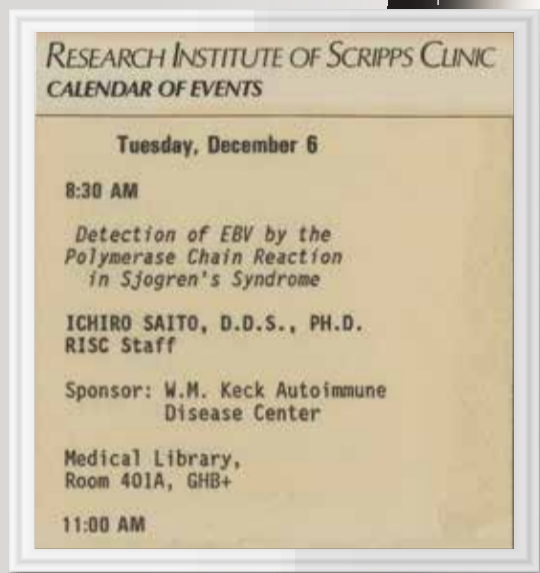
*The price of being a sheep is BOREDOM.
The price of being a wolf is LONELINESS.
Choose one or the other with great care. -- Hugh Macleod*

羊として退屈に生きるか、狼として孤独に生きるか。
どちらの人生を取るか慎重に考えよ。 ヒュー・マックロード

何かをやろうとする時、それを実現するために、今いる場所から飛び出さなければならぬこともある。安全が担保された群れから離れ、一人になることは孤独だ。だからといって、心地よい羊の群れの中でなんとなく過ごしつつることが良いことなのか。このような葛藤をこれまで何度となく繰り返しながらいくつもの大学や研究所を渡り歩き、今日に至った。そう短くはない時間を研究職で過ごしてきたが、その中で体験的に学んだことが少なからずあったように思う。

研究は孤独な試練の連続だ。やったことがすべて成果に結びつくことはあり得ない。その過程では数多くの試行錯誤があり、進んだと思ったらまた振り出しに戻ってしまったり、新たな壁にぶつかったりする。その孤独は、このような職に就く者なら誰もが感じたことがある感覚ではないだろうか。しかし、最先端の分野の“共通の問い”に悩むということは「世界の有数の研究者たちと同じ悩みを共有することだ」と肌で感じられたのは研究者としての最高の喜びだった。その一方で、進むべき道が惑わされ、試練が立て続けに降り注ぐ毎日は、文字通り“魔”の棲むラビリンスに迷いこんでしまったようだった。

もちろん試練から逃げることも簡単だ。しかし、そこからは“退屈”な毎日しか得られない。困難ながらも孤独に粘り強さをもって試行錯誤を続ければ、思ってもみなかったような新たな糸口を掴めるのではないか。そう自分をどこか



騙しながら続けてきたようなところもあった。日々直面する試練や挫折とどう対峙し、その都度どう再起するかを、ことあるごとに問われているような気がする。



Story-8 “Way of Life”

*God grant me the Serenity to accept the things I cannot change,
Courage to change the things I can, and wisdom to know the difference.
-- Reinhold Niebuhr*

変えられないものを受け入れる心の静けさと
変えられるものを変えていく勇気と、その両者を見分ける英知を与えたまえ
ラインホルト・ニーバー

現在の自分の姿は、良くも悪くもこれまでの人生における取捨選択の積み重ねの結果だ。自分なりに試行錯誤を繰り返してきたが、その中で何かを始めようとするとき、医療従事者にとってそれが「やりたいこと」「できること」「社会が求めていること」の3つを備えていることが重要だと考えるようになった。自分がすぐやりたいことでも、社会から求められていなければ価値を認められることはない。また単に現状の能力の範囲でやることを続けていたら、そこには何の成長もない。そのように3つの要素のうちどれかひとつでも欠落しているときは、大失敗したり満足のいく結果を出せなかったし、その逆もあった。

日本の大学の研究室で研究を始めてしばらく経った32歳の時、次のキャリアをどうするかという岐路に立たされた。

いくつかの選択肢が目の前に並んでいた。しかしどの道を選ぶべきか、正直なところ決め手に欠けて悩みあぐねた。どれを取っても「できること」であったが、それは「やりたいこと」とは少しかけ離れているように感じられ、どこか閉鎖的で窮屈な未来しか思い描けなかったからだ。

そのような時に思い出したのが、かつて中高生の頃に FEN で聴いていたアメリカ西海岸の音楽、そしてカリフォルニアのスカッと抜けた青空と清々しい空気への憧憬だった。ふたたび湧き上がってきた情熱に突き動かされるように慣れた環境を離れ、これといった実績も持たずにカリフォルニアの海辺の研究所に飛び込んだ。入所後は無我夢中でもがき続けるしかなかったのだが、いま思えばそれは当時の自分にとって、最高の環境だったように思う。

ボスから課題を提示され、その対応が適確だった者だけがそのプロジェクトを続けることができる。学歴や職歴、国籍も年齢も肌の色も関係ない。日々評価され続けるシビヤな世界だったが「誰にも平等に機会が与えられ、評価が得られれば、次のステップへ進める」ヒリヒリするような緊張感と興奮の中で、瞬間に留学生活は過ぎていった。

自分の実力でやってやろうという、思い上がりにも近い自負もあった。「やるべきことをやっていれば、誰かが見てくれるはずだ」ともどこかで思っていたし、実際に背中を押してくれるような出合いに幸運にも恵まれたし、生涯を通じて取り組む研究テーマを見つけることもできた。そのおかげで現在があると実感している。

Story-9 “Translation”

医学研究において新たな発見をしたわけでもなく、一流誌に論文がいくつも掲載されたわけでもないが、シェーグレン症候群における腺組織障害の解明をテーマに、30年以上研究職に就いてきた。その成果は「日暮れて途遠し」といった段階で、この難病の解明にはまださらなる研究が必要だが、その症状のひとつである「ドライマウス」についての活動で、心から喜んでくれる方々もいらしたことは、正直嬉しく感じている。

かつて基礎研究だけに携わっていた頃、「この仕事は誰かの役に立っているのか」と自問自答してしまうことが多々あった。「業績のためだけに仕事をしているのではないかと自己批判することもあった。そんな中で、これまで基礎的に学んできたことを少しでも臨床に還元できたらと考えていたところ、たまたまそれが着任した大学の理解もあり、専門外来を立ち上げることができた。

そもそも翻って考えてみれば、医学研究の目的は当然ながら、病気を治すことにある。病気の成り立ちを明らかにしてどうすれば治せるかを考え、実践し、受診者にその成果をフィードバックする。そこまで辿り着いて初めて研究者としての価値が認められるのではないかという思いもあった。

豊富な臨床経験はないに等しいが、多くの経験豊かな臨床医との連携により診療を行ってることができた。目の前に人に感謝されればやはり嬉しい。シンプルだが、そんな感情が日々の原動力になってきたように思う。



ドライマウス研究会 DRY MOUTH SOCIETY IN JAPAN

■ドライマウス研究会

様々な病気の一症状として発症し、人口の約25%が罹患しているとも言われているドライマウス（口腔乾燥症）について、病態像の解明とより効果的な治療法の研究だけでなく、全国レベルでの診断・治療のガイドラインを整えて疾患への理解を深めるために、医療従事者向けの組織を立ち上げ、教育活動や新たな歯科医療の提案につながる活動を行っている。

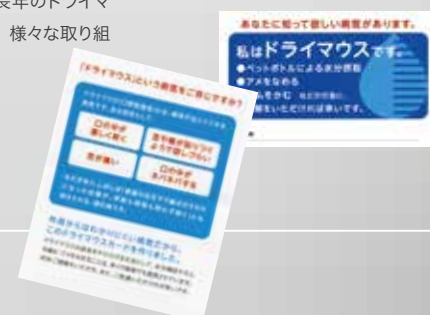
- 設立 2002年5月
- 会員数 4,798名
- 〈医療従事者向け講習会/セミナー/ワークショップ〉
- 開催合計 56回
- 参加者合計 5,275名
- 会場 東京（大手町・丸の内・紀尾井町・新宿・お茶の水・品川）・神奈川・大阪・北海道
- 開催内訳 講習会 31回/セミナー 12回/アドバンスコース 5回/ワークショップ 8回

■ドライマウス患者友の会

ドライマウスの患者さん本人にしか分からないその辛さを少しでも軽くしたいという思いで、情報発信だけでなく、患者さん同士もつながることのできる友の会をつくり活動している。

広報誌での情報発信や、患者さんが周りの方にドライマウスのことを知っていただけるようにする「ドライマウスカード」を無償提供するなど、長年のドライマウス研究の成果を社会に役立てるべく、様々な取り組みを進めている。

- 設立 2003年
- 会員数 766名
- (2020年8月24日現在)



Story-10 “Life is a book”

*Life is like a book, some chapters sad, some happy, and some exciting.
But if you never turn the page... You will never know what the next chapter holds.*

約束された人生などない。
本をめくらないと話が展開しないように、人生は最初から予測できない。



格言で「禍福はあざなえる繩の如し」というように、良いことも悪いことも、繩がより合うように交互にやってくるものだ。しかし人の一生が物語として書かれた本であるとするなら、「次のページ」に何が書かれているかはめくるまで分からない。次の展開が良いのか悪いのか予測ができないので、時には勇気をもってめくる努力も必要だと思う。これまでの

振り返ってみたら、なるほどその通りだった。

ページをめくることで、人生のストーリーは展開する。そしてストーリーをさらに先に進めるために取捨選択をしなければならない場面も多くある。そのような「取捨選択する」という行為を通して、自身のことが分かることがある。あたかも自分が何者かを知るために取捨選択をしている、と言ってもよいかもしれない。進むべき道が複数あって、いずれかを選ばなければならないような人生の岐路に立った時、悩みながらも「自分はどの道を選びとるのか」と冷静に自身を見つめるもう一人の自分があるような気がする。そう長くはない人生、やりたくないことをやっている暇はない。そして、し

てしまったことの後悔よりも、怯んでやらなかったことの後悔のほうが大きいものだ。だから昔から、何かを選ばなければならない場面では、できるだけ面白くて難しそうなおほうを選ぶことが多かった。超えることが難しい場面に直面したその分だけ、学びも出会いも多かったように思う。

約束された人生などない。誰にでも平等にチャンスは訪れる。だから自分を過小評価して可能性を自ら狭めてしまうのではなく、できるだけ困難なことに自ら挑んで、それまで考えもつかなかったような、新たな道を切り拓いてほしいと心から願っている。



Achievements

研究業績

Around A Decade of Department of Pathology / Award

- 02 04 鶴見大学歯学部教授に就任
- 02 10 歯科基礎医学会ライオン学術賞
- 02 10 ドライマウス研究会を設立 (会員 4,798 名)
- 02 12 鶴見大学歯学部附属病院に「ドライマウス外来」を開設
- 03 11 日本病理学会学術研究賞 (A 演説)
- 08 04 鶴見大学歯学部附属病院長に就任
- 11 09 日本シェーグレン症候群学会賞
- 20 04 日本病理学賞 (宿題報告)



日本病理学賞

日本病理学会は約 4,700 名の病理学者・病理医が所属する学会で、病理学領域における学術・医療の振興と普及に関する研究活動に対する奨励及び研究業績の表彰を行っている。2020 年 (令和 2 年)、第 109 回日本病理学会総会における宿題報告担当者に選出され「唾液腺の障害と修復の病理」と題する宿題報告を担当し、日本病理学賞を受賞した。歯科医師がこの賞を受賞したのは歴代 3 人目となる。

受賞講演抄録 唾液腺の障害と修復の病理

現在の医学は臓器別や診療科に細分化され特化することで発展してきたが、「疾患を定義」する病理学では体全体を視野に入れ、脳、骨、神経、筋肉、血管などから口腔に至るまでの横断的な理解が求められている。一方、難病や機能障害を持った人々に豊かな生活を提案することもダイナミックな学問である病理学に従事する者の責務と理解し、これまで積極的に唾液分泌不全の解明やその対処法の開発に取り組んできた。このことは病理学の要諦の一つである現象解明の過程で得られた知見を今後起こり得る事象の予知に役立てることに根差している。しかしそれを的確に予知するには、その現象を招来させる機構を解明することが不可欠だが、それは困難を極め苦渋の連続でもある。それにもかかわらず、数多の先人たちの営みや自身のような者がそれぞれの片隅を地道に築き上げることが今あるような病理学の興行きや希望を獲得してきたはずだと自身に言い聞かせその役割を続けてきた。本宿題報告では長年の課題に対する演者の取り組みと一連の研究内容を会員各位に紹介するとともに基礎から臨床への架け橋となるトランスレーショナルな学問としての「唾液腺の統括病理学」の重要性を強調したい。

消化器および呼吸器の門戸をなす口腔は小器官ではあるが、生物としての生命維持に必要な咀嚼や摂食・嚥下という基本的機能を担うとともに、ヒトとしての根源的欲求である会話や味覚などの高次機能にも関与する。この複雑多岐な口腔機能の維持には唾液腺が不可欠であり、唾液の分泌不全が誘因となる高齢者の誤嚥性肺炎や低栄養の増加は社会問題でもある。

演者は口腔乾燥症 (ドライマウス) を呈する難治性唾液分泌障害の発症・診断・治療を統合的に理解するために、自己免疫疾患であるシェーグレン症候群をはじめとする唾液分泌障害に対して臨床医学に立脚した実験病理学を実践してきた。すなわち、加齢や環境因子による病態の成立機序を検討すると共に、唾液腺分泌

不全を惹起するメカニズムを分子病理学的に解析し、さらには、損傷唾液腺の修復と機能回復を目的とした研究成果の実用化を模索している。

唾液分泌不全は多因子病であり、本邦における口腔乾燥症 (ドライマウス) は 800~3000 万人、外分泌腺特異的な自己免疫疾患のシェーグレン症候群 (SS) は 50 万人と推定される。SS 発症には遺伝的素因 (J. Immunol.1993) とともに多種多様な環境要因が直接・間接に作用しており、Epstein-Barr ウイルス (EBV) も環境因子として知られていることから、その詳細な解析を進めてきた。

SS の臨床検体の解析から、腺上皮や浸潤 B 細胞、唾液には高率に EBV が存在し (J. Exp. Med. 1989)、SS より樹立した B 細胞株は無刺激で EBV を産生すること (Arthritis Rheum.1993)、EBV 再活性化時に唾液腺で検出されるシステインプロテアーゼは SS の自己抗原の成立に働くこと (J. Immunol.2001)、EBV のホモログである *IL-10* を唾液腺特異的に発現させた遺伝子改変マウスでは SS に類似した病変が認められること (J. Immunol.1999) などから、EBV 再活性化は重要な SS の発症要因の一つであることを報告した。

このような EBV の生体内での再活性化誘導因子として、内分泌攪乱物質として知られるダイオキシンを想定し検討したところ、ダイオキシン (TCDD) は EBV 再活性化の指標である ZEBRA の発現や *BZLF1* の転写活性を上昇させた。この TCDD は aryl hydrocarbon レセプター (AhR) の存在下で *BZLF1* の転写活性を上昇させることも明らかになり、さらには SS 患者では健康人と比較して、唾液中の AhR 依存性 *CYP1A1* や *BZLF1* が高転写活性を示すことや、また SS 血清の抗 SSB/La 抗体とも相関を示すこと (J. Immunol.2012) などから、環境中の AhR 活性化因子は EBV 再活性化を介して SS の病態形成を促進することも明らかとなった。

500 例以上の口唇生検より形態 (grade) と機能 (分泌量) の不一致を経験したことから、唾液分泌障害の原因の一つとして酸化ストレスの関与を示し (Pathobiol. 2006, PLoS One. 2015)、この酸化ストレスの唾液分泌障害に対する影響を検証する目的で、マウス唾液腺局所で放射線照射による酸化ストレスにより腺組織障害が生じていることを示し (Radiation Res. 2009)、この障害が細胞移行した血管内皮様細胞 (SP 細胞) により分泌され酸化作用を示すクラスリンにより抑制可能であることを明らかにしてきた (Stem Cells. 2012)。これらの成果を基盤に数多くの臨床研究を重ねるなかで Drug repositioning として唾液分泌障害に奏功する酸化物質を見出してきた (Clin. Biochem.2011, PLoS One, 2019)。さらに、損傷唾液腺の修復と機能回復を目的とした再生医療の一貫として、最近ではマウス ES 細胞から作出された唾液腺オルガノイドを口腔内に同所性に移植することにより唾液を分泌することが確認され (Nature Commun. 2018)、このような唾液分泌不全に対する効果は、難治性唾液腺障害の新規治療法として期待される。

一連の基礎・臨床研究から、SS の唾液分泌障害の病態の多様性は一元的な自己免疫応答では説明できず、複合・同時多発的な成立・維持機序が想定される。複数の唾液分泌障害の背景因子・経路を個々に同定してその相互作用を解明することは、最終的に対因治療の開発に寄与すると考えている。

原著論文

1. Matsumoto N., Omagari D., Ushikoshi-Nakayama R., Yamazaki T., Inoue H., Saito I.: Hyperglycemia induces generation of reactive oxygen species (ROS) and accelerates apoptotic cell death in salivary gland cells. Pathobiology. in accepted.
2. Islam S., Uehara O., Matsuoka H., Kuramitsu Y., Adhikari BR., Hiraki D., Toraya S., Jayawardena A., Saito I., Muthumala M., Nagayasu H., Abiko Y., Chiba I.: DNA hypermethylation of sirtuin 1 (SIRT1) caused by betel quid chewing-a possible predictive biomarker for malignant transformation. Clin. Epigenetics. 2020 Jan 13;12(1):12.
3. Isono Y., Furuya M., Kuwahara T., Sano D., Suzuki K., Jikuya R., Mitome T., Otake S., Kawahara T., Ito Y., Muraoka K., Nakaigawa N., Kimura Y., Baba M., Nagahama K., Takahata H., Saito I., Schmidt L.S., Linehan WM., Kodama T., Yao M., Oridate N., Hasumi H.: FLCN alteration drives metabolic reprogramming towards nucleotide synthesis and cystic formation in salivary gland. Biochem. Biophys. Res. Commun., 2020 Feb 19;522(4):931-938.
4. Tsujino I., Ushikoshi-Nakayama R., Yamazaki T., Matsumoto N., Saito I.: Pulmonary activation of vitamin D3 and preventive effect against interstitial pneumonia. J. Clin. Biochem. Nutr., 2019 Nov;65(3):245-251.
5. Yamazaki T., Ushikoshi-Nakayama R., Shirono K., Suzuki M., Abe S., Matsumoto N., Inoue H., Saito I.: Evaluation of the effect of a heat-killed lactic acid bacterium, Enterococcus faecalis 2001, on oral candidiasis. Benef. Microbes, 2019. July 10 (6): 661-669.
6. Ushikoshi-Nakayama R., Ryo K., Yamazaki T., Kaneko M., Sugano T., Ito Y., Matsumoto N., Saito I.: Effect of gummy candy containing ubiquinol on secretion of saliva: A randomized, double-blind, placebo-controlled parallel-group comparative study and an in vitro study. PLoS One. 2019 Apr 3;14(4):e0214495.
7. Ryo K., Kaneko M., Takahashi K., Ono H., Ogasawara T., Abe M., Saito I.: Study on the salivation effect of encapsulated food products containing Sichuan pepper oil. Clin. Exp. Dent. Res. 2019 Jan 31;5(1):7-13.
8. Makino K., Takeuchi O., Imai K., Inoue H., Hatori K., Himi K., Saito I., Ochiai K., Ogiso B.: Porphyromonas endodontalis reactivates latent Epstein-Barr virus. Int. Endod. J. 2018 Dec;51(12):1410-1419.
9. Tanaka J., Ogawa M., Hojo H., Kawashima Y., Mabuchi Y., Hata K., Nakamura S., Yasuhara R., Takamatsu K., Irie T., Fukada T., Sakai T., Inoue T., Nishimura R., Ohara O., Saito I., Ohba S., Tsuji T., Mishima K.: Generation of orthotopically functional salivary gland from embryonic stem cells, Nature Commun. 2018. Oct 11;9(1):4216.
10. Sumida T., Azuma N., Moriyama M., Takahashi H., Asashima H., Honda F., Abe S., Ono Y., Hirota T., Hirata S., Tanaka Y., Shimizu T., Nakamura H., Kawakami A., Sano H., Ogawa Y., Tsubota K., Ryo K., Saito I., Tanaka A., Nakamura S., Takamura E., Tanaka M., Suzuki K., Takeuchi T., Yamakawa N., Mimori T., Ohta A., Nishiyama S., Yoshihara T., Suzuki Y., Kawano M., Tomiita M., Tsuboi H.: Clinical practice guideline for Sjögren's syndrome 2017. Mod. Rheumatol. 2018 Feb 7:1-74. [Epub ahead of print].
11. Sakano K., Ryo K., Tamaki Y., Nakayama R., Ebihara S., Tozuka K., Saito I.: Effects of Singing on Oral Function, Stress, and Immunity. Oral Health and Care., 2018. 2(5):1-6.
12. Nakamura S., Okamoto M.R., Yamamoto K., Tsurumoto A., Yoshiko Y., Iwabuchi H., Saito I., Maeda N., Nakagawa Y.: The Candida species that are important for the development of atrophic glossitis in xerostomia patients. BMC Oral Health., 2017. Dec 16;17(1):153.
13. Saruta J., To M., Sugimoto M., Yamamoto Y., Shimizu T., Nakagawa Y., Inoue H., Saito I., Tsukinoki K.: Salivary Gland derived BDNF Overexpression in Mice Exerts an Anxiolytic Effect. Int. J. Mol. Sci., 2017. 18(9), 1902.
14. Uehara O., Takimoto K., Morikawa T., Harada F., Takai R., Adhikari B. R., Itatsu R., Namura T., Yoshida K., Matsuoka H., Nagayasu H., Saito I., Muthumala M., Chiba I., Abiko Y.: Unregulated expression of MMP-9 in gingival epithelial cells induced by prolonged stimulation with arecoline. Oncol. Lett., 2017 Jul;14(1):1186-1192. Epub 2017 May 17.
15. Tsuboi H., Hagiwara S., Asashima H., Takahashi H., Hirota T., Noma H., Umehara H., Kawakami A., Nakamura H., Sano H., Tsubota K., Ozawa Y., Takamura Y., Saito I., Inoue H., Nakamura S., Moriyama M., Takeuchi T., Tanaka Y., Hirata S., Mimori T., Matsumoto I., Sumida T.: Comparison of performance of the 2016 ACR-EULAR classification criteria for primary Sjögren's syndrome with other sets of criteria in Japanese patients. Ann. Rheum. Dis., 2017 Dec;76(12):1980-1985. Epub 2017 Mar 22.
16. Inoue H., Kishimoto A., Ushikoshi-Nakayama R., Hasaka A., Takahashi A., Ryo K., Muramatsu T., Ide F., Mishima K., Saito I.: Resveratrol improves salivary dysfunction in a non-obese diabetic (NOD) mouse model of Sjögren's syndrome. J.Clin. Biochem. Nutr. 2016. 59(2): 107-112.
17. Kusakabe Y., Shindo Y., Kawai T., Takahashi Y., Kobori M., Inoue H., Saito I.: Sex-Based Differences in Smcg Expression in the Submandibular Gland of C57BL/6 Mice. Pathobiology, 2016. 83(6): 287-294.
18. Tanaka N., Muro Y., Suzuki Y., Nishiyama S., Takada K., Sekiguchi M., Hashimoto N., Ohmura K., Shimoyama K., Saito I., Kawano M., Akiyama M.: Anticentromere antibody-positive primary Sjögren's syndrome: Epitope analysis of a subset of anticentromere antibody-positive patients. Mod. Rheumatol., 2016 May 10:1-7.
19. Kikuchi K., Ishige T., Ide F., Ito Y., Saito I., Hoshino M., Inoue H., Miyazaki Y., Nozaki T., Kojima M., Kusama K.: Overexpression of Activation-Induced Cytidine Deaminase in MTX- and Age-Related Epstein-Barr Virus-Associated B-Cell Lymphoproliferative Disorders of the Head and Neck. J. Oncol., 2015;2015:605750. Epub 2015 Mar 5.
20. Takahashi A., Inoue H., Mishima K., Ide F., Nakayama R., Hasaka A., Ryo K., Ito Y., Sakurai T., Hasegawa Y., Saito I.: Evaluation of the effects of quercetin on damaged salivary secretion. PLoS One, 2015 Jan 28;10(1): e0116008. eCollection 2015.
21. Matsuoka H., Chiba I., Sakano Y., Saito I., Abiko Y.: The effect of cognitive appraisal for stressors on the oral health-related QOL of dry mouth patients. Biopsychosoc. Med., 2014 Oct 22;8:24. eCollection 2014.
22. Ryo K., Takahashi A., Nimi A., Tamaki Y., Ohnishi-Kameyama M., Inoue H., Saito I.: Therapeutic effects of isoflavones on impaired salivary secretion. J. Clin. Biochem. Nutr., 55(3): 168-173, Nov, 30, 2014. Epub Sep, 30, 2014.
23. Niikura A.J., Yamachika S., Yamamoto K., Okamoto M.R., Ikeda Y. F., Nakamura S., Oda E., Imamura T.K., Saito I., Nakagawa Y.: Efficient diagnosis of Sjögren's syndrome to reduce the burden on patients. Mod. Rheumatol. 25(1): 100-104, Jan. 2015. Epub Jun, 12, 2014.
24. Sakano K., Ryo K., Tamaki Y., Nakayama R., Hasaka A., Takahashi A., Ebihara S., Tozuka K., Saito I.: Possible benefits of singing to the mental and physical condition of the elderly. Biopsychosoc. Med., 8: 11. May 21, 2014. eCollection 2014.
25. Imai K., Kamoi N., Cueno M. E., Saito Y., Inoue H., Saito I., Ochiai K.: Role of the histone H3 lysine 9 methyltransferase Suv39 h1 in maintaining Epstein-Barr virus latency in B95-8 cells. FEBS J., 281(9): 2148-2158. May 17, 2014. Epub 2014 Mar 17.
26. Tsuboi H., Asashima H., Takai C., Hagiwara S., Hagiya C., Yokosawa M., Hirota T., Umehara H., Kawakami A., Nakamura H., Sano H., Tsubota K., Ogawa Y., Takamura E., Saito I., Inoue H., Nakamura S., Moriyama M., Takeuchi T., Tanaka Y., Hirata S., Mimori T., Yoshifuji H., Ohta A., Matsumoto I., Sumida T.: Primary and secondary surveys on epidemiology of Sjögren's syndrome in Japan. Mod. Rheumatol., 24(3): 464-470. May 2014. Epub 2013 Nov 15.
27. Kimori H., Yamamoto K., Yamachika S., Tsurumoto A., Kamikawa Y., Sasao M., Morito M., Saito I., Ohshima T., Maeda N., Nakagawa Y.: Factors associated with the presence of atrophic tongue in patients with dry mouth. Gerodontology, 32(1): 13-17. Mar, 30, 2015. Epub 2013 May 30.
28. Ide F., Muramatsu T., Ito Y., Kikuchi K., Miyazaki Y., Saito I., Kusama K.: An expanded and revised early history of the adenomatoid odontogenic tumor. Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol., 115(5): 646-651, May 2013.
29. Yamamura Y., Yamada H., Sakurai T., Ide F., Inoue H., Muramatsu T., Mishima K., Hamada Y., Saito I.: Treatment of salivary gland hypofunction by transplantation with dental pulp cells. Arch. Oral Biol., 58(8): 935-942, Aug, 2013. Epub Apr, 6, 2013.
30. Tsuboi H., Hagiwara S., Asashima H., Umehara H., Kawakami A., Nakamura H., Sano H., Tsubota K., Ogawa Y., Takamura E., Saito I., Inoue H., Nakamura S., Moriyama M., Takeuchi T., Tanaka Y., Hirata S., Mimori T., Matsumoto I., Sumida T.: Validation of different sets of criteria for the diagnosis of Sjögren's syndrome in Japanese patients. Mod. Rheumatol., 23(2): 219-225, 2013. Epub Dec, 28, 2012.
31. Mishima K., Inoue H., Nishiyama T., Mabuchi Y., Amano Y., Ide F., Matsui M., Yamada H., Yamamoto G., Tanaka J., Yasuhara R., Sakurai T., Lee M., Chiba K., Sumimoto H., Kawakami Y., Matsuzaki Y., Tsubota K., Saito I.: Transplantation of side population cells restores the function of damaged exocrine glands through clusterin. Stem Cells, 30(9): 1925-1937, Sep, 2012. Aug, 20, 2012.
32. Okamoto M.R., Kamoi M., Yamachika S., Tsurumoto A., Imamura T., Yamamoto K., Kadomatsu S., Saito I., Maeda N., Nakagawa Y.: Efficacy of Fungiflora Y staining for the diagnosis of oral erythematous candidiasis. Gerodontology, 30(3): 220-225, Sep. 2013. Epub May 14, 2012.
33. Kobayashi S., Kawakita T., Kawashima M., Okada N., Mishima K., Saito I., Ito M., Shimmura S., Tsubota K.: Characterization of cultivated murine lacrimal gland epithelial cells. Mol. Vis., 18: 1271-1277, May 12, 2012. Epub May 12, 2012.
34. Ooka H., Kanda S., Okazaki H., Suzuki H., Mishima K., Saito I., Yagi M., Tomoda K., Nishiyama T.: Characterization of side population (SP) cells in murine cochlear nucleus. Acta Otolaryngol., 132(7): 693-701, Jun, 2012. Epub Jun, 5, 2012.
35. Inoue H., Mishima K., Yamamoto S., Nakayama R., Nakagawa Y., Yamamoto K., Ryo K., Ide F., Saito I.: Aryl hydrocarbon receptor-mediated induction of Epstein-Barr virus reactivation as a risk factor for Sjögren's syndrome. J. Immunol., 188(9): 4654-4662, May 1, 2012. Epub Mar 30, 2012.
36. Imai K., Inoue H., Tamura M., Cueno M. E., Inoue H., Takeichi O., Kusama K., Saito I., Ochiai K.: The periodontal pathogen Porphyromonas gingivalis induces the Epstein-Barr virus lytic switch transactivator ZEBRA by histone modification. Biochimie., 94(3): 839-846, Mar, 2012. Epub Dec, 8, 2011.
37. Okada N., Kawakita T., Mishima K., Saito I., Miyashita H., Yoshida S., Shimmura S., Tsubota K.: Clusterin promotes corneal epithelial cell growth through upregulation of hepatocyte growth factor by mesenchymal cells in vitro. Invest. Ophthalmol. Vis. Sci., 52(6): 2905-2910, May, 2, 2011. Epub Jan, 31, 2011.
38. Takeichi O., Hatori K., Kamimoto A., Oka S., Ogiso B., Saito I.: Receptor for advanced glycation end products (RAGE)-expressing endothelial cells co-express AGE and S100 in human periapical granulomas. J. Dent., 39(10): 679-685, Oct, 39, 2011. Epub Aug, 16, 2011.
39. Ryo K., Ito A., Takatori R., Tai Y., Arikawa K., Seido T., Yamada T., Shinpo K., Tamaki Y., Fujii K., Yamamoto Y., Saito I.: Effects of Coenzyme Q10 on salivary secretion. Clin. Biochem., 44(8-9): 669-674, 2011. Epub Mar, 22, 2011.
40. Shimozuma M., Tokuyama R., Tatehara S., Umeki H., Ide S., Mishima K., Saito I., Satomura K.: Expression and cellular localization of melatonin-synthesizing enzymes in rat and human salivary glands. Histochem. Cell Biol., 135(4): 389-396, Apr, 2011. Epub Mar, 10, 2011.
41. Kumasaka S., Shimozuma M., Kawamoto T., Mishima K., Tokuyama R., Kamiya Y., Davaadorj P., Saito I., Satomura K.: Possible involvement of melatonin in tooth development: expression of melatonin 1a receptor in human and mouse tooth germs. Histochem. Cell Biol., 133(5): 577-584, May, 2010. Epub Apr, 7, 2010.
42. Yamada T., Ryo K., Tai Y., Tamaki Y., Inoue H., Mishima K., Tsubota K., Saito I.: Evaluation of therapeutic effects of astaxanthin on impairments in salivary secretion. J. Clin. Biochem. Nutr., 47(2): 130-137, Sep, 2010. Epub Jun, 22, 2010.
43. Ryo K., Ito A., Takatori R., Tai Y., Tokunaga J., Arikawa K., Yamada T., Shinpo K., Yasuda H., Saito I.: Correlation between mercury concentrations in hair and dental amalgam fillings. Anti-Aging Medicine, 7: 14-17, 2010.
44. Arita K., Tashima I., Ikeda K., Nishimura H., Arai Y., Saito I., Asada Y.: Quantitative trait locus analysis of gutter-shaped root. Pediatric Dental Journal, 20: 65-70, 2010.
45. Miyamoto S., Cooper L., Watanabe K., Yamamoto S., Inoue H., Mishima K., Saito I.: Role of retinoic acid-related orphan receptor-alpha in differentiation of human mesenchymal stem cells along with osteoblastic lineage. Pathobiology, 77(1): 28-37, Feb, 2010. Epub Feb, 25, 2010.
46. Tsubota K., Nishiyama T., Mishima K., Inoue H., Doi T., Tsunenari Y., Hattori Y., Kodama T., Higuchi A., Hayashi Y., Saito I.: The role of fractalkine as an accelerating

Achievements

- factor on the autoimmune exocrinopathy in mice. *Invest. Ophthalmol. Vis. Sci.*, 50(10): 4753-4760, Oct, 2009. Epub Apr, 30, 2009.
- Tai Y., Inoue H., Sakurai T., Yamada H., Morito M., Ide F., Mishima K., Saito I.: Protective effect of lichenized SOD on reactive oxygen species-induced xerostomia. *Radiat. Res.*, 172(3): 331-338, Sep, 2009.
 - Fukada T., Civic N., Furuichi T., Shimoda S., Mishima K., Higashiyama H., Idaira Y., Asada Y., Kitamura H., Yamasaki S., Hojyo S., Nakayama M., Ohara O., Koseki H., Dos Santos HG., Bonafe L., Ha-Vinh R., Zankl A., Unger S., Kraenzlin ME., Beckmann J. S., Saito I., Rivolta C., Ikegawa S., Superti-Furga A., Hirano T.: The zinc transporter SLC39A13/ZIP13 is required for connective tissue development; its involvement in BMP/TGF-beta signaling pathways. *PLoS One*, 3(11) Nov, 5, 2008, e3642.1-13. IF1000 factor : 9.0] *This paper was selected by "Faculty of 1000 Biology"*.
 - Rummenie V. T., Matsumoto Y., Dogru M., Wang Y., Hu Y., Ward S. K., Igarashi A., Wakamatsu T., Ibrahim O., Goto E., Luyten G., Inoue H., Saito I., Shimazaki J., Tsubota K.: Tear cytokine and ocular surface alterations following brief passive cigarette smoke exposure. *Cytokine*, 43(2): 200-208, Aug, 2008. Epub Jul, 3, 2008.
 - Matsumoto Y., Dogru M., Goto E., Sasaki Y., Inoue H., Saito I., Shimazaki J., Tsubota K.: Alterations of the tear film and ocular surface health in chronic smokers. *Eye*, 22(7): 961-968, Jul, 2008. Epub Apr, 18, 2008.
 - Nishiyama T., Mishima K., Obara K., Inoue H., Doi T., Kondo S., Saka M., Tabunoki Y., Hattori Y., Kodama T., Tsubota K., Saito I.: Amelioration of lacrimal gland inflammation by oral administration of K-13182 in Sjogren's syndrome model mice. *Clin. Exp. Immunol.*, 149(3): 586-595, Sep, 2007. Epub Jul, 5, 2007.
 - Hama S., Takeichi O., Saito I., Ito K.: Involvement of inducible nitric oxide synthase and receptor for advanced glycation end products in periapical granulomas. *J. Endod.*, 33 (22): 137-141, Feb, 2007.
 - Yamada H., Nakagawa Y., Wakamatsu E., Sumida T., Yamachika S., Nomura Y., Mishima K., Saito I.: Efficacy prediction of cevimeline in patients with Sjogren's syndrome. *Clin. Rheumatol.*, 26(8): 1320-1327, Aug, 2007. Epub Jan, 13, 2007.
 - Nishiyama T., Mishima K., Ide F., Yamada K., Obara K., Sato A., Hitosugi N., Inoue H., Tsubota K., Saito I.: Functional analysis of an established mouse vascular endothelial cell line. *J. Vasc. Res.*, 44(2): 138-148, Feb, 2007. Epub Jan, 11, 2007.
 - Obara K., Ide F., Mishima K., Inoue H., Yamada H., Hayashi Y., Saito I.: Biological and oncogenic properties of p53-deficient salivary gland epithelial cells with particular emphasis on stromal-epithelial interactions in tumorigenesis. *Pathobiology*, 73(5): 261-270, Feb, 2006.
 - Nishiyama T., Nakamura T., Obara K., Inoue H., Mishima K., Matsumoto N., Matsui M., Manabe T., Mikoshiba K., Saito I.: Up-regulated PAR-2-mediated salivary secretion in mice deficient in muscarinic acetylcholine receptor subtypes. *J. Pharmacol. Exp. Ther.*, 320(2): 516-524, Feb, 2006. Epub Oct, 31, 2006.
 - Ryo K., Yamada H., Nakagawa Y., Tai Y., Obara K., Inoue H., Mishima K., Saito I.: Possible involvement of oxidative stress in salivary gland of patients with Sjogren's syndrome. *Pathobiology*, 73(5): 252-260, 2006.
 - Hara T., Nakamura K., Matsui M., Yamamoto A., Nakahara Y., Suzuki-Migishima R., Yokoyama M., Mishima K., Saito I., Okano H., Mizushima N.: Suppression of basal autophagy in neural cells causes neurodegenerative disease in mice. *Nature*, 441 (7095): 885-889, Jun, 2006. Epub Apr, 19, 2006.
 - Yamada K., Inoue H., Kida S., Masushige S., Nishiyama T., Mishima K., Saito I.: Involvement of cAMP response element-binding protein activation in salivary secretion. *Pathobiology*, 73(1): 1-7, Jun, 2006.
 - Ishimaru N., Arakaki R., Omotehara F., Yamada K., Mishima K., Saito I., Hayashi Y.: Novel role for RbAp48 in tissue-specific, estrogen deficiency-dependent apoptosis in the exocrine glands. *Mol. Cell Biol.*, 26(8): 2924-2935, Apr, 2006.
 - Iioka Y., Mishima K., Azuma N., Tsuchida A., Takagi Y., Aoki T., Saito I.: Overexpression of protein kinase C delta enhances cisplatin-induced cytotoxicity correlated with p53 in gastric cancer cell line. *Pathobiology*, 72(3): 152-159, Apr, 2005.
 - Yamada H., Nakagawa Y., Nomura Y., Yamamoto K., Suzuki M., Watanabe N.Y., Saito I., Seto K.: Preliminary results of moisture checker for Mucus in diagnosing dry mouth. *Oral Dis.*, 11(6): 405-407, Nov, 2005. Epub Nov, 1, 2007.
 - Maruyama T., Saito I., Hayashi Y., Kompfner E., Fox R. I., Burton D. R., Ditzel H. J.: Molecular analysis of the human autoantibody response to alpha-fodrin in Sjogren's syndrome reveals novel apoptosis-induced specificity. *Am. J. Pathol.*, 165(1): 53-61, Jul, 2004.
 - Nagata Y., Inoue H., Yamada K., Higashiyama H., Mishima K., Kizu Y., Takeda I., Mizuno F., Hayashi Y., Saito I.: Activation of Epstein-Barr virus by saliva from Sjogren's syndrome patients. *Immunology*, 111(2): 223-229, Feb, 2004. Epub Jan, 21, 2004.
 - Arakaki R., Ishimaru N., Saito I., Kobayashi M., Yasui N., Sumida T., Hayashi Y.: Development of autoimmune exocrinopathy resembling Sjogren's syndrome in adoptively transferred mice with autoreactive CD4+ T cells. *Arthritis Rheum.*, 48(12): 3603-3609, Dec, 2003. Epub Dec, 8, 2003.
 - Takeda I., Kizu Y., Yoshitaka O., Saito I., Yamane G. Y.: Possible role of nitric oxide in radiation-induced salivary gland dysfunction. *Radiat. Res.*, 159(4): 465-470, Apr, 2003.
 - Matsuoka T., Okamoto Y., Matsuzaki Z., Endo S., Ito E., Tsutsumi H., Williamson R. A., Sakurai H., Burton D. R., Saito I.: Characteristics of immunity induced by viral antigen or conferred by antibody via different administration routes. *Clin. Exp. Immunol.*, 130 (3): 386-392, Dec, 2002. Epub Nov, 24, 2002.
 - Saegusa K., Ishimaru N., Yanagi K., Arakaki R., Ogawa K., Saito I., Katsunuma N., Hayashi Y.: Cathepsin S inhibitor prevents autoantigen presentation and autoimmunity. *J. Clin. Invest.*, 110(3): 361-369, Aug, 2002. Epub Aug, 1, 2002.
 - Saegusa K., Ishimaru N., Yanagi K., Mishima K., Arakaki R., Suda T., Saito I., Hayashi Y.: Prevention and induction of autoimmune exocrinopathy is dependent on pathogenic autoantigen cleavage in murine Sjogren's syndrome. *J. Immunol.*, 169(2): 1050-1057, Jul, 15, 2002.
 - Fujishima H., Saito I., Takeuchi T., Tsubota K.: Immunological characteristics of patients with vernal keratoconjunctivitis. *Jpn. J. Ophthalmol.*, 46(3): 244-248, May-Jun, 2002.
 - Ishimaru N., Yanagi K., Ogawa K., Suda T., Saito I., Hayashi Y.: Possible role of leucocytes. *Immunology*, 93: 275-280, 1998.
 - Yanagi K., Haneji N., Ishimaru N., Hamano H., Saito I., Hayashi Y.: Analysis of T cell receptor Vbeta usage in the autoimmune sialadenitis of non-obese diabetic(NOD) mice. *Clin. Exp. Immunol.*, 110: 440-446, 1997.
 - Kitagawa M., Saito I., Kuwata T., Yoshida S., Yamaguchi S., Takahashi M., Tanizawa T., Kamiyama R., Hirokawa K.: Overexpression of tumor necrosis factor (TNF)-alpha and interferon (IFN)-gamma by bone marrow cells from patients with myelodysplastic syndromes. *Leukemia*, 11: 2049-2054, 1997.
 - Hiraoka M., Saito I., Tsubota K., Sugai S., Miyasaka N.: Augmented expression of CD44 splice variants in lymphoproliferative disorder of the lacrimal gland in Sjögren's syndrome. *Jpn. J. Ophthalmol.*, 41: 312-318, 1997.
 - Takahashi M., Ishimaru N., Yanagi K., Haneji N., Saito I., Hayashi Y.: High incidence of autoimmune dacryoadenitis in male non-obese diabetic(NOD) mice depending on sex steroid. *Clin. Exp. Immunol.*, 109: 555-561, 1997.
 - Fujishima H., Saito I., Takeuchi T., Shinozaki N., Tsubota K.: Characterization of cytokine mRNA transcripts in conjunctival cells in patients with allergic conjunctivitis. *Invest. Ophthalmol. Vis. Sci.*, 38: 1350-1357, 1997.
 - Fujishima H., Takeyama M., Takeuchi T., Saito I., Tsubota K.: Elevated levels of substance P in tears of patients with allergic conjunctivitis and vernal keratoconjunctivitis. *Clin. Exp. Allergy*, 27: 372-378, 1997.
 - Haneji N., Nakamura T., Takio K., Yanagi K., Higashiyama H., Saito I., Noji S., Sugino H., Hayashi Y.: Identification of alpha-fodrin as a candidate autoantigen in primary Sjögren's syndrome. *Science*, 276: 604-607, 1997.
 - Yamano S., Renard JN., Mizuno F., Narita Y., Uchida Y., Higashiyama H., Sakurai H., Saito I.: Retrovirus in salivary glands from patients with Sjögren's syndrome. *J. Clin. Pathol.*, 50: 223-230, 1997.
 - Kizu Y., Sakurai H., Katagiri S., Shinozaki N., Ono M., Tsubota K., Saito I.: Immunohistological analysis of tumour growth factor beta1 expression in normal and inflamed salivary glands. *J. Clin. Pathol.*, 49: 728-732, 1996.
 - Fujishima H., Shimazaki J., Takeuchi T., Saito I., Tsubota K.: Interleukin-4 and IgE in seasonal allergic conjunctivitis. *Ophthalmologica*, 210: 325-328, 1996.
 - Hayashi J., Masaka T., Saito I., Ishikawa I.: Soluble CD14 mediates lipopolysaccharide-induced intercellular adhesion molecule 1 expression in cultured human gingival fibroblasts. *Infect. Immun.*, 64: 4946-4951, 1996.
 - Haro H., Shinomiya K., Komori H., Okawa A., Saito I., Miyasaka N., Furuya K.: Upregulated expression of chemokines in herniated nucleus pulposus resorption. *Spine*, 21: 1647-1652, 1996.
 - Takeichi O., Saito I., Tsurumachi T., Moro I., Saito T.: Expression of inflammatory cytokine genes in vivo by human alveolar bone-derived polymorphonuclear leukocytes isolated from chronically inflamed sites of bone resorption. *Calcif. Tissue Int.*, 58: 244-248, 1996.
 - Takeshima H., Ikemoto T., Nishi M., Nishiyama N., Shimuta M., Sugitani Y., Kuno J., Saito I., Saito H., Endo M., Iino M., Noda T.: Generation and characterization of mutant mice lacking ryanodine receptor type 3. *J. Biol. Chem.*, 271: 19649-19652, 1996.
 - Kaneko M., Hayashi J., Saito I., Miyasaka N.: Probucool downregulates E-selectin expression on cultured human vascular endothelial cells. *Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol.*, 16: 1047-1051, 1996.
 - Usui Y., Kohsaka H., Eishi Y., Saito I., Marumo F., Miyasaka N.: Shared amino acid motifs in T-cell receptor beta junctional regions of bronchoalveolar T cells in patients with pulmonary sarcoidosis. *Am. J. Respir. Crit. Care Med.*, 154: 50-56, 1996.
 - Matsuzaki Z., Okamoto Y., Sarashina N., Ito E., Togawa K., Saito I.: Induction of intercellular adhesion molecule-1 in human nasal epithelial cells during respiratory syncytial virus infection. *Immunology*, 88: 565-568, 1996.
 - Liu MF., Kohsaka H., Sakurai H., Azuma M., Okumura K., Saito I., Miyasaka N.: The presence of costimulatory molecules CD86 and CD28 in rheumatoid arthritis synovium. *Arthritis Rheum.*, 39: 110-114, 1996.
 - Saito I., Shimuta M., Terauchi K., Tsubota K., Yodoi J., Miyasaka N.: Increased expression of human thioredoxin/adult T cell leukemia-derived factor in Sjogren's syndrome. *Arthritis Rheum.*, 39: 773-782, 1996.
 - Fujishima H., Saito I., Takeuchi T., Shinozaki N., Tsubota K.: Measurement of interleukin-4 and histamine in superficial cells of conjunctiva in patients with allergic conjunctivitis. *Curr. Eye Res.*, 15: 209-213, 1996.
 - Higashiyama H., Saito I., Hayashi Y., Miyasaka N.: In situ hybridization study of vascular cell adhesion molecule-1 messenger RNA expression in rheumatoid synovium. *J. Autoimmun.*, 8: 947-957, 1995.
 - Fujishima H., Takeuchi T., Shinozaki N., Saito I., Tsubota K.: Measurement of IL-4 in tears of patients with seasonal allergic conjunctivitis and vernal keratoconjunctivitis. *Clin. Exp. Immunol.*, 102: 395-398, 1995.
 - Tsubota K., Fujishima H., Toda I., Katagiri S., Kawashima Y., Saito I.: Increased levels of Epstein-Barr virus DNA in lacrimal glands of Sjögren's syndrome patients. *Acta Ophthalmol. Scand.*, 73: 425-430, 1995.
 - Sakurai H., Kohsaka H., Liu MF., Higashiyama H., Hirata Y., Kanno K., Saito I., Miyasaka N.: Nitric oxide production and inducible nitric oxide synthase expression in inflammatory arthritides. *J. Clin. Invest.*, 96: 2357-2363, 1995.
 - Murakami S., Muneta T., Furuya K., Saito I., Miyasaka N., Yamamoto H.: Immunohistologic analysis of synovium in infrapatellar fat pad after anterior cruciate ligament injury. *Am. J. Sports Med.*, 23:763-768, 1995.
 - Inoue H., Saito I., Nakazawa R., Azuma N., Suzuki M., Miyasaka N.: Eluate from beta 2MG adsorbent beads enhances the expression of IL-1beta from human monocyte. *Nephrol. Dial. Transplant.*, 10: 2161-2162, 1995.
 - Inoue H., Saito I., Nakazawa R., Mukaida N., Matsushima K., Azuma N., Suzuki M., Miyasaka N.: Expression of inflammatory cytokines and adhesion molecules in haemodialysis-associated amyloidosis. *Nephrol. Dial. Transplant.*, 10: 2077-2082, 1995.
 - Mizushima N., Kohsaka H., Tsubota K., Saito I., Miyasaka N.: Diverse T cell receptor beta gene usage by infiltrating T cells in the lacrimal glands of Sjögren's syndrome. *Clin. Exp. Immunol.*, 101: 33-38, 1995.
 - Fujishima H., Okamoto Y., Saito I., Tsubota K.: Respiratory syncytial virus and allergic conjunctivitis. *J. Allergy Clin. Immunol.*, 95: 663-667, 1995.
 - Inuo G., Akao N., Kohsaka H., Saito I., Miyasaka N., Fujita K.: Toxocara canis adult worm antigen induces proliferative response of healthy human peripheral blood mononuclear cells. *Parasite Immunol.*, 17: 77-84, 1995.
 - Ono M., Saito I., Yoshino K., Tsubota K., Moro I.: Distribution of IgA-1 and IgA-2 containing cells in lacrimal glands of patients with Sjogren's syndrome. *Reg. Immunol.*, 6: 218-224, 1994.
 - Sugai S., Saito I., Masaki Y., Takeshita S., Shimizu S., Tachibana J., Miyasaka N.: Rearrangement of the rheumatoid factor-related germline gene Vg and bcl-2 expression in lymphoproliferative disorders in patients with Sjögren's syndrome. *Clin. Immunol. Immunopathol.*, 72:181-186, 1994.
 - Miyasaka N., Saito I., Haruta J.: Possible involvement of Epstein- Barr virus in the pathogenesis of Sjogren's syndrome. *Clin. Immunol. Immunopathol.*, 72:166-170, 1994.
 - Hayashi J., Saito I., Ishikawa, I., Miyasaka N.: Effects of cytokines and periodontopathic bacteria on the leukocyte function-associated antigen 1/intercellular adhesion molecule 1 pathway in gingival fibroblasts in adult periodontitis. *Infect. Immun.*, 62: 5205-5212, 1994.
 - Koike R., Miki I., Otoshi M., Totsuka T., Inoue H., Kase H., Saito I., Miyasaka N.: Gold sodium thiomalate down-regulates intercellular adhesion molecule-1 and vascular cell adhesion molecule-1 expression on vascular endothelial cells. *Mol. Pharmacol.*, 46:599-604, 1994.
 - Miyasaka N., Saito I., Uemura T., Kashiwazaki S.: Augmented expression of inflammatory cytokines and adhesion molecules in accelerated nodulosis during methotrexate therapy. *Ann. Rheum. Dis.*, 53: 480-481, 1994.
 - Yamaoka KA., Miyasaka N., Inuo G., Saito I., Kolb JP., Fujita K., Kashiwazaki S.: 1,1'-Ethylidenebis (tryptophan)(Peak E) induces functional activation of human eosinophils and interleukin 5 production from T lymphocytes: association of eosinophilia-myalgia syndrome with a L-tryptophan contaminant. *J. Clin. Immunol.*, 14: 50-60, 1994.
 - Takeichi O., Saito I., Tsurumachi T., Saito T., Moro I.: Human polymorphonuclear leukocytes derived from chronically inflamed tissue express inflammatory cytokines in vivo. *Cell Immunol.*, 156: 296-309, 1994.
 - Tsubota K., Saito I., Miyasaka N.: Granzyme A and Perforin expressed in the lacrimal glands of Patients with Sjögren's syndrome. *Am. J. Ophthalmol.*, 117: 120-121, 1994.
 - Iwase T., Saito I., Takahashi T., Chu L., Usami T., Mestecky J., Moro I.: Early expression of human J chain and mu chain gene in the fetal liver. *Cell Struct. Func.*, 18: 297-302, 1993.
 - Okamoto Y., Kudo K., Ishikawa K., Ito E., Togawa K., Saito I., Moro I., Patel JA., Ogra PL.: Presence of respiratory syncytial virus genomic sequences in middle ear fluid and its relationship to expression of cytokines and cell adhesion molecules. *J. Infect. Dis.*, 168: 1277-1281, 1993.
 - Okamoto Y., Shirotori K., Kudo K., Ishikawa K., Ito E., Togawa K., Saito I.: Cytokine expression after the topical administration of substance P to human nasal mucosa. The role of substance P in nasal allergy. *J. Immunol.*, 151: 4391-4398, 1993.
 - Hamano H., Saito I., Haneji N., Mitsuhashi Y., Miyasaka N., Hayashi Y.: Expressions of cytokine genes during development of autoimmune sialadenitis in MRL/lpr mice. *Eur. J. Immunol.*, 23: 2387-2391, 1993.
 - Totsuka T., Tanimoto H., Yamaguchi T., Inoue H., Saito I., Miyasaka N.: Invasive human T lymphoma cells produce a novel factor that upregulates expression of adhesion molecules on endothelial cells. *Exp. Hematol.*, 21: 1544-1549, 1993.
 - Maruyama T., Saito I., Miyake S., Hashimoto H., Sato K., Yagita H., Okumura K., Miyasaka N.: A possible role of two hydrophobic amino acids in antigen recognition by synovial T cells in rheumatoid arthritis. *Eur. J. Immunol.*, 23: 2059-2065, 1993.
 - Tateishi M., Saito I., Yamamoto K., Miyasaka N.: Spontaneous production of Epstein-Barr virus by B lymphoblastoid cell lines obtained from patients with Sjögren's syndrome. Possible involvement of a novel strain of Epstein-Barr virus in disease pathogenesis. *Arthritis Rheum.*, 36: 827-835, 1993.
 - Kang HI., Fei HM., Saito I., Sawada S., Chen SL., Yi D., Chan E., Peebles C., Bugawan TL., Erlich HA., et al.: Comparison of HLA class II genes in Caucasian, Chinese, and Japanese patients with Primary Sjögren's syndrome. *J. Immunol.*, 150: 3615-3623, 1993.
 - Saito I., Terauchi K., Shimuta M., Nishiimura S., Yoshino K., Takeuchi T., Tsubota K., Miyasaka N.: Expression of cell adhesion molecules in the salivary and lacrimal glands of Sjogren's syndrome. *J. Clin. Lab. Anal.* 7: 180-187, 1993.
 - Morshed SA., Nishioka M., Saito I., Komiyama K., Moro I.: Increased expression of Epstein-Barr virus in primary biliary cirrhosis patients. *Gastroenterol. Jpn.*, 27: 751-758, 1992.
 - Okamoto Y., Shirotori K., Kudo K., Ito E., Togawa K., Saito I., Moro I., Ogra PL.: Genomic sequences of respiratory syncytial virus in otitis media with effusion. *Lancet.*, 338: 1025-1026, 1991.
 - Saito I., Nishimura S., Kudo I., Fox RI., Moro I.: Detection of Epstein-Barr virus and human herpes virus type 6 in saliva from patients with lymphoproliferative diseases by the polymerase chain reaction. *Arch. Oral Biol.*, 36: 779-784, 1991.
 - Fox RI., Dotan I., Compton T., Fei HM., Hamer M., Saito I.: Use of DNA amplification methods for clinical diagnosis in autoimmune diseases. *J. Clin. Lab. Anal.*, 3: 378-387, 1989.
 - Saito I., Servenius B., Compton T., Fox RI.: Detection of Epstein-Barr virus DNA by polymerase chain reaction in blood and tissue biopsies from patients with Sjogren's syndrome. *J. Exp. Med.*, 169: 2191-2198, 1989.
 - Fox RI., Saito I., Chan EK, Josephs S., Salahuddin SZ., Ahlashi DV., Staal FW., Gallo R., Pei-Ping H., Le CS.: Viral genomes in lymphomas of patients with Sjögren's syndrome. *J. Autoimmun.*, 2: 449-455, 1989.
 - Saito I., Fox RI., Walker LE., Fernsten PD., Howell FV.: Monoclonal antibodies potentially useful for diagnosis of squamous cell oral carcinoma. *J. Clin. Lab. Anal.*, 2: 235-240, 1988.
 - Takagi M., Saito I., Kuwata F., Otsuka K.: Specific binding of peanut agglutinin and

Achievements

症例報告

- Ide F., Ito Y., Saito I.: Pseudoadenoid dysplasia in proliferative verrucous leukoplakia. Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 121: 198-200.
- Ide F., Ito Y., Matsuoka K., Muramatsu T., Saito I.: Re-excision perineural invasion in oral squamous cell carcinoma. Oral Dis., 26: 2013.
- Ide F., Ito Y., Muramatsu T., Saito I.: Sclerosing odontogenic carcinoma: a morphologic pattern or pathologic entity? Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol., 115: 839, 2013.
- Ide F., Ito Y., Muramatsu T., Saito I., Abiko Y.: Histogenetic relations between keratoameloblastoma and solid variant of odontogenic keratocyst. Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol., 6: 812-813, 2012.
- Ide F., Mishima K., Kikuchi K., Horie N., Yamachika S., Satomura K., Shimoyama T., Sakashita H., Saito I., Kusama K.: Development and growth of adenomatoid odontogenic tumor related to formation and eruption of teeth. Head Neck Pathol., 2: 123-132, 2011.
- Ide F., Kikuchi K., Miyazaki Y., Mishima K., Saito I., Kusama K.: Keratocyst of the buccal mucosa: is it odontogenic? Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 5: 42-47, 2010.
- Ide F., Mishima K., Yamada H., Kikuchi K., Saito I., Kusama K.: Intraosseous ameloblastoma with a prominent extraosseous component: pitfalls in diagnosis. Head Neck Pathol., 4: 192-197, 2010.
- Yamada H., Mishima K., Kawaguchi K., Horiuchi T., Nakaoka K., Iino M., Saito I., Hamada Y.: A nodular buccal mass. Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 110: 140-144, 2010.
- Ide F., Mishima K., Saito I., Kusama K.: Diagnostically challenging epithelial odontogenic tumors: a selective review of 7 jawbone lesions. Head Neck Pathol., 3: 18-26, 2009.
- Ide F., Mishima K., Miyazaki Y., Saito I., Kusama K.: Peripheral ameloblastoma in-situ: an evidential fact of surface epithelium origin. Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 108: 763-767, 2009.
- Ide F., Mishima K., Yamada H., Saito I.: Adenoid cystic carcinoma ex pleomorphic adenoma of the parotid gland. Head Neck Pathol., 3: 159-162, 2009.
- Ide F., Saito I., Horie N., Shimoyama T.: Orthokeratinized dontogenic cyst of the mandible with heterotopic cartilage. Head Neck Pathol., 3: 150-152, 2009.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Papillary hemangioma on the face. J. Cutan. Pathol., 36: 601-602, 2009.
- Ide F., Mishima K., Tanaka A., Saito I., Kusama K.: Mucinous adenocarcinoma of minor salivary glands: a high-grade malignancy prone to lymph node metastasis. Virchows Arch., 454: 55-60, 2009.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Mucoepidermoid carcinoma with spindle cell change: a low-grade lesion potentially mistaken for sarcomatoid dedifferentiation. Head Neck Pathol., 2: 227-230, 2008.
- Ide F., Mishima K., Saito I., Kusama K.: Rare peripheral odontogenic tumors: report of 5 cases and comprehensive review of the literature. Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 106: e22-28, 2008.
- Yamamoto K., Nagashima H., Yamachika S., Hoshiba D., Yamaguchi K., Yamada H., Saito I., Nakagawa Y.: The application of a night guard for sleep-relatedxerostomia. Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 106: 11-14, 2008.
- Ide F., Obara K., Yamada H., Mishima K., Saito I., Kusama K.: Cellular basis of verruciform xanthoma: immunohistochemical and ultrastructural characterization. Oral Dis., 14: 150-157, 2008.
- Ide F., Mishima K., Yamada H., Horie N., Saito I., Shimoyama T., Kusama K.: Unsuspected small ameloblastoma in the alveolar bone: a collaborative study of 14 cases with discussion of their cellular sources. J. Oral Pathol. Med., 37: 221-227, 2008.
- Ide F., Mishima K., Yamada H., Saito I., Horie N., Shimoyama T., Kusama K.: Perivascular myoid tumors of the oral region: a clinicopathologic re-evaluation of 35 cases. J. Oral Pathol. Med., 37: 43-49, 2008.
- Yamada H., Kawaguchi K., Yagi M., Morita Y., Mishima K., Uno K., Kobayashi K., Saito I., Seto K.: Epithelial-myoepithelial carcinoma of the submandibular gland with a highuptake of 18F-FDG: a case report and image diagnosis. Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 104: 243-248, 2007.
- Ide F., Mishima K., Yamada H., Saito I., Tanaka A., Kusama K.: Neurotized nevi of the oral mucosa: an imunohistochemical and ultrastructural analysis of nevic corpuscles. J. Oral Pathol. Med., 36: 505-510, 2007.
- Ide F., Obara K., Yamada H., Mishima K., Saito I., Horie N., Shimoyama T., Kusama K.: Hamartomatous proliferations of odontogenic epithelium within the jaws: a potential histogenetic source of intraosseous epithelial odontogenic tumors. J. Oral Pathol. Med., 36: 229-235, 2007.
- Ide F., Obara K., Yamada H., Mishima K., Saito I.: Intravascular myopericytoma of the oral mucosa: a rare histologic variant in location. Virchows Arch., 450: 475-477, 2007.
- Nishiyama T., Mishima K., Ide F., Yamada K., Obara K., Sato A., Hitosugi N., Inoue H., Tsubota K., Saito I.: Functional analysis of an established mouse vascular endothelial cell line. J. Vasc. Res., 44: 138-148, 2007.
- Ide F., Obara K., Mishima K., Saito I.: Ganglioneuromatous hamartoma of the tongue. J. Clin. Pathol. Med., 59: 887, 2006.
- Ide F., Obara K., Mishima K., Saito I.: Intraparotid pseudoglandular schwannoma. J. Oral Pathol. Med., 35: 379-381, 2006.
- Ide F., Obara K., Mishima K., Saito I., Horie N., Shimoyama T., Kusama K.: Peripheral odontogenic tumor: a clinicopathologic study of 30 cases. General features and hamartomatous lesions. J. Oral Pathol. Med., 34: 552-557, 2005.
- Ide F., Obara K., Mishima K., Saito I.: Ameloblastoma ex calcifying odontogenic cyst (dentinogenic ghost cell tumor). J. Oral Pathol. Med., 34: 511-512, 2005.
- Ide F., Obara K., Mishima K., Saito I., Kusama K.: Ultrastructural spectrum of solitary fibrous tumor: a unique perivascular tumor with alternative lines of differentiation. Virchows Arch., 446: 646-652, 2005.
- Ide F., Obara K., Enatsu K., Mishima K., Saito I.: Sclerosing mucoepidermoid carcinoma of the oral cavity. J. Oral Pathol. Med., 34: 187-189, 2005.

- Ide F., Obara K., Enatsu K., Mishima K., Saito I.: Balloon cell nevus of the soft palate: an immunohistochemical and ultrastructural study. Pathol. Int., 54: 872-876, 2004.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Pacinian corpuscle in the juxtaoral organ of Chievitz. J. Oral Pathol. Med., 33: 443-444, 2004.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Circumscribed salivary duct carcinoma of the palate: a non-threatening variant. Histopathology, 45: 89-91, 2004.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Angiomyoma in the submandibular gland: a rare location for a ubiquitous tumour. J. Laryngol. Otol., 117: 1001-1002, 2003.
- Ide F., Obara K., Enatsu K., Mishima K., Saito I.: Rare vascular proliferations of the oral mucosa. Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 97: 75-78, 2004.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Sarcomatoid salivary duct carcinoma of the oral cavity. Virchows Arch., 443: 686-689, 2003.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Small foci of high-grade carcinoma cells in adenoid cystic carcinoma represent an incipient phase of dedifferentiation. Histopathology, 43: 604-606, 2003.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Juxtaoral organ of Chievitz presenting clinically as a tumour. J. Clin. Pathol., 56: 789-790, 2003.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Solitary sclerotic fibroma of the lip. Br. J. Dermatol., 149: 433-435, 2003.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Cystadenocarcinoma in the maxillary sinus with high-grade carcinoma component. Histopathology, 43: 95-97, 2003.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Solid-cystic tumor variant of odontogenic keratocyst: an aggressive but benign lesion simulating keratoameloblastoma. Virchows Arch., 442: 501-503, 2003.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Melanin pigmentation in the juxtaoral organ of Chievitz. Pathol. Int., 53: 262-263, 2003.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Adenolipoma of the lip. Br. J. Dermatol., 148: 606-607, 2003.
- Ide F., Mishima K., Saito I.: Ectomesenchymal chondromyxoid tumor of the anterior tongue with myxoglobulosislike change. Virchows Arch., 442: 302-303, 2003.
- Ide F., Saito I.: Many faces of odontogenic keratocyst. Oral Oncol., 39: 204-205, 2003.
- Ide F., Saito I.: Oral solitary fibrous tumour. Oral Dis., 8: 314-315, 2002.

著書

- 齋藤一郎（分担）：新版 歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学、医歯薬出版、2019.
- 齋藤一郎（分担）：学研まんがでよくわかるシリーズ 147 ガムのひみつ【新版】、学研プラス、2019.
- 齋藤一郎（分担）：ライフステージに合わせた口腔機能への対応　MFT　アップデート、医歯薬出版、2018.
- 齋藤一郎（分担）：代謝センシング―健康、食、美容、薬、そして脳の代謝を知る―、シーエムシー出版、2018.
- 齋藤一郎（分担）：シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル 改訂第3版、診断と治療社、2018.
- 齋藤一郎（分担）：小児期シェーグレン症候群（SS）診療の手引き 2018年版、羊土社、2018.
- 齋藤一郎（分担）：新口腔病理学第2版、医歯薬出版、2018.
- 齋藤一郎（分担）：噛むだけでやせる！超健康になる！、マキノ出版、2018.
- 齋藤一郎（分担）：患者さんのエイジングに備える　高齢者への歯周治療と口腔管理、インターアクション株式会社、2018.
- 齋藤一郎（分担）：口腔病理アトラス第3版、文光堂、2018.
- 齋藤一郎（分担）：歯周病を自分で治す最強療法、マキノ出版、2017.
- 齋藤一郎（分担）：『臨床のみかたシリーズ』新訂版　知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療―歯科医療につながる医学知識―、永末書店、2017.
- 齋藤一郎（分担）：シェーグレン症候群診療ガイドライン 2017年版、診断と治療社、2017.
- 齋藤一郎（編著・分担）：超高齢社会におけるドライマウスへの対応　―いま、ドライマウスにどう取り組むべきか、ヒューロン・パブリッシャーズ、2017.
- 梁　洪淵、齋藤一郎（分担）：機能的食品DATABOOK 第2版、メディカルレビュー社、2016.
- 梁　洪淵、齋藤一郎（分担）：ドクターが教える あなたのカラダとサプリメント、メディカルレビュー社、2016.
- 齋藤一郎（分担）：口腔内科学、永末書店、2016.
- 齋藤一郎（監修・分担）：ドライシンドロームの基礎と臨床、メディカルレビュー社、2016.
- 齋藤一郎（単著）：幸せを引き寄せる笑顔の法則、誠文堂新光社、2016.
- 齋藤一郎（分担）：標準口腔外科学第4版、医学書院、2015.
- 齋藤一郎（分担）：EB ウイルス第3版、診断と治療社、2015.
- 齋藤一郎（編集・監修・分担）：アンチエイジング医学の基礎と臨床第3版、メジカルビュー社、2016.
- 齋藤一郎（分担）：健康に長生きしたければ1日1曲歌いなさい、株式会社アスコム、2015.
- 齋藤一郎（分担）：ラジオ深夜便 新珠玉のこぼれ　～ラジオが教えてくれた名言 100～、一般財団法人 NHK サービスセンター、2015.
- 梁　洪淵、齋藤一郎（分担）：コエンザイム Q10の基礎と応用、丸善プラネット、2015.
- 齋藤一郎（分担）：非侵襲的検体検査の最前線、シーエムシー出版、2015.
- 齋藤一郎（分担）：シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル改訂第2版、診断と治療社、2013.
- 齋藤一郎（分担）：歯科医療ナビゲーション―今さら聞け！ないこんな事―、シエン社、2013.
- 齋藤一郎（分担）：日本経済をリードする 60歳代市場の攻略術　GS 世代白書、メディアパル、2013.
- 齋藤一郎（分担）：ドクターズガイド 治せる医師を本気で探そう、時事通信出版局、2013.
- 梁　洪淵、齋藤一郎（分担）：機能的食品素材のためのヒト評価、シーエムシー出版、2013.
- 齋藤一郎（分担）：珠玉のこぼれ、ラジオ深夜便日記手帳、一般財団法人 NHK サービスセンター、2013年度版。
- 齋藤一郎（分担）：イラストで語る歯科医学最前線、クインテッセンス出版社、2013.
- 齋藤一郎（分担）：新口腔病理、医歯薬出版、2013.
- 齋藤一郎（分担）：最新歯科衛生士教本　疾病の成り立ち及び回復過程の促進1　病理学・口腔病理学、医歯薬出版、2012.
- 齋藤一郎（分担）：珠玉のこぼれ、ラジオ深夜便日記手帳、一般財団法人 NHK サービス

- スセンター、2012年度版。
- 梁　洪淵、齋藤一郎（分担）：アンチエイジングにおけるバイオマーカーと機能的食品、シーエムシー出版、2011.
- Nakagawa Y., Saito I.（分担）：New Approaches for the Management of Dry Mouth in Sjogren's Syndrome in Japan, Sjogren's Syndrome. Practical Guidelines to Diagnosis and Therapy, Springer, 2011.
- 齋藤一郎（分担）：見た目のアンチエイジング　皮膚・容貌・体型の若返りの手法、文光堂、2011.
- 齋藤一郎（分担）：シェーグレンと共に vol.2患者篇、前田書店、2011.
- 齋藤一郎（分担）：家庭医学大全科、法研、2010.
- 齋藤一郎（単著）：「食べる力」を鍛えてピンピン元気 健康長寿の秘訣とその実践法、東洋経済新報社、2010.
- 梁　洪淵、齋藤一郎（分担）：抗加齢医療その最前線の実際、新興医学出版社、2010.
- 齋藤一郎（単著）：口からはじめる不老の科学、日本評論社、2009.
- 齋藤一郎（分担）：雑学読本 NHK ためしてガッテン 13、NHK 出版、2009.
- 齋藤一郎（分担）：口腔の病態を診る、デンタルダイヤモンド社、2009.
- 齋藤一郎（監修）、坪田一男、中川洋一：ドライアイ&ドライマウス、永末書店、2009.
- 齋藤一郎（分担）：シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル、診断と治療社、2009.
- 中川洋一、齋藤一郎（共著）：これで解決!!ドライマウス、永末書店、2009.
- 齋藤一郎（分担）：アンチエイジング医学の基礎と臨床第2版、メジカルビュー社、2008.
- 齋藤一郎（分担）：やさしいシェーグレン症候群の自己管理、医業ジャーナル、2008.
- 多田鐸介、齋藤一郎（監修）：食べる喜びを新・介護食レシビ、阪急コミュニケーションズ、2008.
- 齋藤一郎（分担）：う蝕学―チェアサイドの予防と回復のプログラム―、永末書店、2008.
- 梁　洪淵、齋藤一郎（分担）：保健指導者ハンドブック、社会保険研究所、2008.
- 齋藤一郎（分担）：コメディカル病理学第2版、学建書院、2008.
- 小原久美、齋藤一郎（分担）：老化・老年病研究のための動物実験ガイドブック、株式会社アドスリー、2008.
- 齋藤一郎（分担）：高齢者歯科医療、永末書店、2008.
- 齋藤一郎（分担）：名医が解説する症状からわかる病気の本、角川SSコミュニケーションズ、2008.
- 美島健二、齋藤一郎（分担）：新口腔病理学、医歯薬出版、2008.
- 齋藤一郎（分担）：EB ウイルス第2版、診断と治療社、2008.
- 齋藤一郎（単著）：「現代病」ドライマウスを治そう、講談社、2007.
- 齋藤一郎（編集）：ドライマウスの臨床、医歯薬出版、2007.
- 齋藤一郎（分担）：セルフ・メディカ 予防と健康の事典、小学館、2007.
- 梁　洪淵、齋藤一郎（編著）：歯科医師・歯科衛生士のためのアンチエイジング医学入門、永末書店、2007.
- 齋藤一郎（分担）：いまからはじめる口腔ケア、学建書院、2007.
- 齋藤一郎（分担）：最新 病理学・口腔病理学、医歯薬出版、2007.
- 梁　洪淵、齋藤一郎（分担）：アンチエイジングドッグ、診断と治療社、2007.
- 齋藤一郎（分担）：この病気にこの名医 Part3、主婦と生活社、2007.
- 齋藤一郎（分担）：口腔病理アトラス第2版、文光堂、2006.
- 齋藤一郎（分担）：口腔外科ハンドマニュアル '06、クインテッセンス出版、2006.
- 齋藤一郎（分担）：アクティブシニア社会の食品開発指針、医歯薬出版、2006.
- 齋藤一郎（分担）：アンチエイジング医学―その理論と実践―、診断と治療社、2006.
- 齋藤一郎（分担）：アンチエイジングと機能的食品―今なぜバイオマーカーか―、シーエムシー出版、2006.
- 齋藤一郎（編著）：口腔から実践するアンチエイジング医学、医歯薬出版、2006.
- 齋藤一郎（分担）：メモリーケア 認知症をめぐる 177 の物語、コムスンプレス、2006.
- 齋藤一郎（分担）：ドライマウス診療マニュアル、永末書店、2005.
- 齋藤一郎（単著）：不老は口からアンチエイジング最前線、光文社、2005.
- 齋藤一郎（分担）：看護で役立つ 口腔乾燥と口腔ケア　機能低下の予防をめざして、医歯薬出版、2005.
- 齋藤一郎（分担）：唾液による健康づくり、ヒューロン・パブリッシャーズ、2005.
- Fox RL, Saito I.（分担）：Sjogren's syndrome, autoimmune diseases of the skin, Springer New York., 2005.
- Mishima K., Inoue H., Saito I.（分担）：Identification of side population cells of salivary glands, Interface Oral Health Science., 2005.
- 齋藤一郎（分担）：NHK がんサポートキャンペーン がんを生き抜く実践プログラム、NHK 出版、2005.
- 齋藤一郎（分担）：雑学読本 NHK ためしてガッテン 8、NHK 出版、2004.
- 齋藤一郎（編集・分担）：コメディカル病理学、学建書院、2004.
- 齋藤一郎（分担）：EB ウイルス、診断と治療社、2003.
- 齋藤一郎（単著）：ドライマウス あなたの口乾いていませんか？、日本評論社、2003.
- 齋藤一郎（分担）：新シェーグレン症候群ハンドブック、前田書店、2002.
- Fox RL, Saito I.（分担）：Sjogren's syndrome, Clinical Immunology, -Principles and Practice-, ed. Robert R. Rich, 1995.
- Fox RL, Saito I.（分担）：Criteria for diagnosis of Sjogren's syndrome. Rheum. Dis. Clin. North Am., 20: 391-407, 1994.
- 齋藤一郎（分担）：分子生物学・免疫学キーワード辞典、医学書院、1994.
- 齋藤一郎（分担）：シェーグレン症候群がわかる、診療新社、1994.
- Fox RL, Saito I.（分担）：Sjogren's syndrome, Clinical Immunology, St. Louis Missouri, 1-28, 1993.
- Fox RL, Saito I.（分担）：Diagnostic criteria for Sjogren's syndrome, Current Controversies in rheumatology, Rheum. Dis. Clin. North Am., 1-28, 1993.
- 宮坂信之、齋藤一郎（分担）：最新内科学大系 22 自己免疫疾患と免疫不全、中山書店、1993.
- Saito I., Nishimura S., Tsubota K., Miyasaka N.（分担）：Comparison of diagnosis and treatment of Sjogren's syndrome in Japan and United States. Rheum. Dis. Clin. North Am., 18: 673-682, 1992.
- 齋藤一郎（分担）：シェーグレン症候群ハンドブック、タケハヤ株式会社、1991.
- Fox RL, Saito I, Compton T.（分担）：Strategies to search for infectious agents in autoimmune disease. Autoimmunity and Molecular Biology. ed. Ernest Brahn, Little and Brown, Co., Boston, MA. 1990.
- Fox RL, Saito I.（分担）：Clinical syndromes associated with Epstein-Barr virus. Epstein-Barr virus and human disease. The humana press, NJ., 239-250, 1988.
- Fox RL, Carson D, Fei HM., Saito I.（分担）：The potential role of infectious agents in

chronic autoimmune diseases. Recent advances in autoimmunity and tumor immunology. Edi-ermes, Milano, 3-14, 1988.

- Moro I., Komiyaama K., Saito I., Kusama K., Iwase T., Horie N., Sano R.（分担）：Electron microscopic study of human colostral cells. Protides of the biological fluids. Pergamon Press, 32: 223-226, 1985.

日本学術振興会科学研究費補助金

- 令和2年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
脂肪由来幹細胞による唾液腺特異的傷害モデルマウスの組織再生と促進因子の網羅的解析
- 令和2年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
EB ウイルス遺伝子導入マウスによるシェーグレン症候群発症機構の解明
- 令和2年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
MCI・認知症で生ずる活性酸素種の同定と抗酸化物質によるストレス軽減法の検討
- 令和2年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
高齢期におけるオーラルフレイルの予防手段としての歌唱習慣の意義
- 令和元年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
ヘルペスウイルスを介した慢性疲労の発症機構の解明とその制御因子の検索
- 平成29年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
唾液腺特異的障害モデルマウスの作出と EGFR2/MUC1 経路による修復機構の解明
- 平成27年度　基盤研究（B）研究代表者　齋藤一郎（3年間）
カロリー制限研究からの知見を応用した唾液分泌障害に対する新規治療基盤の確立
- 平成27年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
エストロゲンによるミトコンドリアを介した唾液分泌制御機構の解明
- 平成26年度　研究活動スタート支援　研究分担者　齋藤一郎（2年間）
顎下腺機能に概日リズムを生じる機構の解明
- 平成26年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
高含有大豆イソフラボン代謝産物を用いた口腔乾燥症に対する効果とその作用機序の検討
- 平成26年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
唾液分泌促進により消化管機能の改善に寄与する新規治療法の開発
- 平成25年度　萌芽研究　研究代表者　齋藤一郎（3年間）
歯科医師のうつ病対策における情報提供システムの確立
- 平成25年度　若手研究（B）研究分担者　齋藤一郎（2年間）
Tenascin-C による歯髄幹細胞の活性を期待する機能的マトリックスの開発
- 平成25年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
ヒト歯髄細胞を用いた自己免疫性唾液腺炎の発症機構の解析と治療法の検討
- 平成24年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
EB ウイルス由来小RNA EBER を介した自己免疫応答誘導の可能性の検討
- 平成23年度　基盤研究（B）研究代表者　齋藤一郎（3年間）
Sirt1 分子による唾液分泌制御機構の解明
- 平成23年度　基盤研究（B）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
咀嚼運動による唾液腺由来 BDNF の抗うつ効果についての解明
- 平成23年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
唾液腺分泌促進に有効な機能的食品の検討
- 平成23年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
iPS 細胞を用いた唾液腺細胞分化誘導法の確立
- 平成23年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
唾液分泌障害に対するレスベラトロールの効果の検討
- 平成21年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
TLR を介した EB ウイルスによる唾液腺障害機構の解明
- 平成20年度　基盤研究（B）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
唾液分泌障害におけるクラステリンの治療効果の検討
- 平成20年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
唾液腺 side population 細胞における幹細胞活性の検討
- 平成20年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
活性酸素を介した唾液分泌障害機序の解析と SOD の予防的効果の検討
- 平成20年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
唾液分泌障害患者の唾液を用いた生活習慣病関連遺伝子の解析
- 平成20年度　若手研究（B）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
SS における MK の役割と診断マーカーとしての検討
- 平成19年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（2年間）
EB ウイルス感染モデルマウスを用いた臓器特異的自己免疫疾患発症機構の解明
- 平成19年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（3年間）
抗加齢医学に基づいた口腔と全身の老化指標の確立
- 平成18年度　萌芽研究　研究代表者　齋藤一郎（2年間）
酸化ストレスによる外分泌腺機能障害機構の解明
- 平成18年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（2年間）
p53 遺伝子欠損上皮細胞株を用いた癌化メカニズムの解明
- 平成17年度　基盤研究（B）研究代表者　齋藤一郎（2年間）
リンケージ解析による臓器特異的自己免疫疾患関連遺伝子の検索と診断法の確立
- 平成17年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（2年間）
遺伝子導入フィーダー細胞を用いた外分泌腺幹細胞培養法の確立および治療への応用
- 平成16年度　基盤研究（C）研究分担者　齋藤一郎（2年間）
内分泌攪乱物質およびエストロゲンによる外分泌腺障害成立機序の解明
- 平成15年度　若手研究（B）研究代表者　美島健二（2年間）
多分化能を有する幹細胞を用いた唾液腺組織再生の試み
- 平成14年度　基盤研究（B）研究代表者　齋藤一郎（2年間）
導入遺伝子発現調節システムを用いた自己免疫疾患モデルマウスの確立

Achievements

その他の助成金

- 平成 27 年度 私立大学等教育研究活性化設備整備費事業
研究代表者 齋藤一郎（1年間）
- 平成 27 年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
研究代表者 齋藤一郎（5年間）
- 平成 26 年度 私立大学等教育研究活性化設備整備費事業
研究代表者 齋藤一郎（1年間）
- 平成 26 年度 厚生労働科学研究費補助金、難治性疾患克服研究事業 - 自己免疫疾患に関する調査研究 -
研究分担者 齋藤一郎（3年間）
- 平成 25 年度 私立大学等教育研究活性化設備整備事業
研究代表者 齋藤一郎（1年間）
- 平成 25 年度 厚生労働省科学研究費補助金、地域医療基盤開発推進研究事業 - 国際化に対応した科学的視点に立った日本漢方診断法・処方分類及び用語の標準化の確立 -
研究分担者 齋藤一郎（1年間）
- 平成 23 年度 農林水産省委託事業 - 唾液腺上皮細胞株を用いた唾液腺機能障害におけるインフラボン効果の検討 -、- 更年期のドライマウス患者におけるインフラボン効果の検討 -
研究分担者 齋藤一郎（3年間）
- 平成 23 年度 厚生労働科学研究費補助金、難治性疾患克服研究事業 - 自己免疫疾患に関する調査研究 -
研究分担者 齋藤一郎（3年間）
- 平成 18 年度 学術研究振興資金、日本私立学校振興・共済事業団 腺組織破壊におけるエストロゲンの関与 - Epstein Barr ウイルスの関連 -
研究代表者 齋藤一郎（1年間）
- 平成 17 年度 厚生労働科学研究費補助金、難治性疾患克服研究事業 - 難治性疾患による涙腺の障害に対する新規治療法の開発 -
研究分担者 齋藤一郎（3年間）
- 平成 15 年度 財団法人木原記念横浜生命科学振興財団 -NFS/sld マウスを用いたシェーグレン症候群原因遺伝子の同定 -
研究代表者 美島健二 齋藤一郎 朝田芳信（1年間）
- 平成 14 年度 厚生労働省特定疾患対策 涙腺の障害を生じる特定疾患に対する治療法に関する研究（涙腺の分化増殖機構の解明と再生医療への応用）班
研究分担者 齋藤一郎（3年間）

講演

講演 / シンポジウム一覧	
2020/10/20	第 675 回松江赤十字病院集談会 特別講演
2020/10/6-7	第 73 回日本酸化ストレス学会／第 20 回日本 NO 学会合同学術集会 ランチョンセミナー 2
2020/02/02	大垣歯科医師会 学術講演会
2020/01/29	Care Show Japan 2020 統合医療展 セミナー
2020/01/22	公益財団法人いきいき埼玉 彩の国いきかい大学伊奈学園 講演
2019/12/17	サラジェン Web 講演会 講演
2019/12/16	健康保険組合連合会神奈川連合会 健康増進講習会 講演
2019/11/14	ME-BYO サミット神奈川 2019 分科会③
2019/11/03	第 9 回電子免疫治療研究会カンファレンス 教育講演
2019/10/04	食品開発展 2019 講演
2019/08/21	日本スキン・エステティック協会 JSA セミナー 2019 Vol.47 招聘講演
2019/07/12	株式会社第一物産グループ新事業年度総会 招聘講演
2019/07/10	株式会社ホットアルバム炭酸泉タブレット 招聘講演
2019/07/08	株式会社ホットアルバム炭酸泉タブレット 招聘講演
2019/06/09	厚労省自己免疫疾患医療講演会 講演
2019/05/18	第 15 回日本疲労学会総会・学術大会 ランチョンセミナー 1
2019/02/28	第 11 回河田町歯科口腔外科懇話会
2019/02/16	明石市歯科医師会主催介護予防研修会 講演
2019/01/25	健康博覧会 / FOOD DESIGN EXPO 2019
2019/01/23	Care Show Japan 2019 統合医療展 セミナー
2019/01/21	日本抗加齢医学会 第 3 回メディアセミナー
2018/10/05	食品開発展 2018 講演
2018/09/22	NPO 法人くすり・たべもの・からだの協議会主催第 15 回講演会
2018/08/25	第 29 回日本臨床口腔病理学会総会・第 11 回日本口腔検査学会総会共催学術大会 4 学会シンポジウム
2018/07/07	第 5 回かゐるくの会 講演
2018/06/22-24	国際 CoQ10 学会 講演
2018/06/08	第 7 回江戸川ライン SS 研究会 特別講演
2018/05/26	第 18 回日本抗加齢医学会総会・学術大会 ランチョンセミナー 14
2018/05/25	第 18 回日本抗加齢医学会総会・学術大会 ランチョンセミナー 4
2018/05/22	品川シルバー大学 講演
2018/02/08	第 2 回栃木県歯科病診連携の会 講演
2018/01/21	明日からの臨床に役立つ乳酸菌の活用法 講演
2018/01/14	日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会
2017/11/23	福岡県歯科医師会お口のサポート講習会
2017/11/17	第 33 回食の文化を考えるミズホ学級 講演
2017/11/06	新宿区歯科講演会
2017/10/10	中野区医師会内科医会内分泌・膠原病グループ講演会 特別講演
2017/09/01	練馬区口腔機能向上講演会
2017/08/05	第 15 回亜鉛栄養治療研究会 セミ講演
2017/07/26	ウエルネスフードジャパン セミナー
2017/06/29	三越伊勢丹グループ講演会 札幌
2017/06/23	三越伊勢丹グループ講演会 福岡

2017/06/17	三越伊勢丹グループ講演会 仙台
2017/06/14	三越伊勢丹グループ講演会 高松
2017/06/08	横浜市西区医師会 学術講演会
2017/06/02	第 17 回日本抗加齢医学会総会・学術大会 ランチョンセミナー 6
2017/05/28	三越伊勢丹グループ講演会 新潟
2017/05/26	ifaJAPAN2017 / HFE JAPAN2017 セミナー 講演
2017/04/27	口腔アンチエイジングセミナー 講演
2017/04/12	藤戸田市医師会 学術講演会
2017/01/15	日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会
2017/01/11	事業構想大学院大学 セミナー講演
2016/11/16	大田区口腔機能向上講習会
2016/11/13	日本口腔粘膜機構設立記念講演会
2016/10/23	平成 28 年度杉並区よい歯ファミリーフェスティバル講演会
2016/10/21	平成 28 年度渋谷区介護予防講演会
2016/10/16	第 6 回電子免疫治療研究会カンファレンス 特別講演
2016/09/27	NPO 法人健康食品フォーラム第 35 回健康食品セミナー
2016/09/18	第 4 回日本ドライシンドローム学会 シンポジウム 1
2016/09/09	第 25 回シェーグレン症候群学会学術集会 ランチョンセミナー 2
2016/07/20	中部国際空港 スタッフ向けセミナー
2016/07/16	2016 近畿大学アンチエイジングセンター 第 16 回市民公開講座
2016/07/09	国公私立大合同進学ガイダンス夢ナビライブ 2016 講演
2016/06/28	品川シルバー大学 講演
2016/06/28	座間市介護予防事業講演会
2016/05/21	第 3 回北関東医療・健康イノベーションフォーラム 講演
2016/02/14	第 9 回丸山記念総合病院歯科口腔外科病診連携講演会
2015/12/14	練馬区光が丘保健相談所 歯科講演会
2015/12/10	松本歯科大学総合歯科医学研究所セミナー
2015/12/07	山梨口腔外科集談会 特別講演
2015/11/13	佐倉市在宅歯科講演会
2015/10/18	秦野の会 講演
2015/10/17	松本歯科大学校友会山梨県支部 学術講演会
2015/10/02	練馬区関係保健相談所 口腔機能向上講演会
2015/09/27	和歌山県歯科医師会学術大会 講演
2015/09/04	乾燥症連携ミーティング 特別講演
2015/07/12	平成 27 年度福島県歯科衛生士会研修会
2015/06/24	荒川区口腔保健講演会
2015/05/29	第 15 回日本抗加齢医学会総会・学術大会 ランチョンセミナー 5
2015/03/14	第 4 回兵庫・大阪シェーグレンフォーラム 特別公演
2015/03/05	一般社団法人日本音楽健康協会設立記念シンポジウム
2015/01/30	昭島市歯科講演会
2015/01/26	エコールドロイヤル公開講座
2015/01/11	日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会
2014/11/25	キッセイ薬品工業株式会社 社内研修会
2014/11/15	日本歯科人間ドック学会第 17 回学術大会 特別講演
2014/11/09	鶴見大学歯学部同窓会栃木支部 学術講演会
2014/11/02	伊勢丹立川店 セミナー
2014/10/23	東京都小金井歯科医師会 市民公開講座
2014/10/15	東京都中央区京橋歯科医師会 学術講演会
2014/10/12	秦野ヨガの会 講演
2014/10/04	第 48 回日本口腔科学会関東地方部会 教育講演
2014/09/19	第 19 回膠原病臨床病理研究会
2014/03/07	足立区スマイルアップ講習会
2014/03/05	株式会社第一興商 エルダー事業推進会議
2014/02/20	IMEC2014 第 10 回統合医療展アンチエイジングフォーラム
2014/02/06	事業構想大学院大学 ドライマウスセミナー
2014/02/01	足立区耳鼻咽喉科医会学術講演会
2014/01/26	日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会
2014/01/19	第 3 回日本ドライシンドローム学会 シンポジウム 1
2013/12/14	第 144 回盛岡おどおどり健康教室
2013/11/23	日本健康医療学会総会第 6 回学術大会 特別講演
2013/11/11	新宿区四谷保健センター ドライマウス専門相談
2013/10/27	第 12 回更年期と加齢のヘル스ケア学会学術集会 シンポジウム
2013/10/20	平成 25 年世田谷区歯科医師会 区民向け講演会
2013/10/12	第 58 回日本口腔外科学会総会・学術大会 口腔三学会合同シンポジウム
2013/10/06	平成 25 年度東京都歯科医師会生涯研修セミナー ランチョンセミナー
2013/10/01-07	(株) 三越伊勢丹ホールディングス 『笑顔』トレーニングセミナー
2013/09/15	第 6 回日本口腔検査学会総会・学術大会 ランチョンセミナー、共催シンポジウム 1
2013/09/12	第 72 回一般社団法人日本栄養評議会 勉強会
2013/09/10	9 月 10 日スペシャルセミナー
2013/07/18	第 2 回ドライシンドローム診療連携会 特別講演
2013/07/14	ドライマウスとアンチエイジングの最前線
2013/07/14	更年期と加齢のヘルスケア第 4 回カウンセラー・アドバイザー研修会
2013/06/29	平成 25 年度関東甲信越診療放射線技師学術大会 教育講演 3
2013/06/28	第 13 回日本抗加齢医学会総会・学術大会 ランチョンセミナー 3
2013/05/26	日本臨床形成美容外科医会・研修会
2013/05/26	第 9 回世界歯内療法会議 シンポジウム 7
2013/04/05	第 117 回日本眼科学会総会 シンポジウム 09
2013/03/10	姫路市歯科医師会第 7 回市民公開講座
2013/03/03	ドライマウスとアンチエイジングの最前線
2013/01/20	日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会
2012/11/14	東京都大田区大森歯科医師会 第 3 回学術講演会
2012/11/09	小樽市歯科医師会 学術講演会
2012/11/08	株式会社三越伊勢丹 社内研修 講演
2012/11/04	第 11 回更年期と加齢のヘルスケア学会学術集会 シンポジウム
2012/10/28	第 51 回広島県歯科医学会併催第 96 回広島大学歯学会 特別講演
2012/10/25	第 65 回日本自律神経学会総会 シンポジウム 3

2012/10/12	G S 世代研究会 第 3 回勉強会
2012/10/10	日本統合医療普及推進協会 2012 年度第 1 回勉強会
2012/10/01	千代田区千代田保健所 円元からアンチエイジング教室 講演
2012/09/08	第 4 回三条市歯科保健・市民フォーラム
2012/07/30	社団法人日本私立歯科大学協会 第 3 回歯科プレスセミナー
2012/07/08	更年期と加齢のヘルスケア学会 第 4 回カウンセラー研修会
2012/07/01	日本訪問歯科協会 実践！訪問歯科アドバンスコース 講演
2012/06/24	第 12 回日本抗加齢医学会総会 市民公開講座
2012/06/11	歯科再生医療産学連携会議 第 13 回産学連携フォーラム
2012/05/29	日本抗加齢医学会・日本白内障屈折矯正手術学会 合同エデュケーションalseminar
2012/05/20	全国膠原病友の会 神奈川県支部主催 医療講演会
2012/05/19	日本口腔感染症学会セミナー&認定制度講習会
	スプリングカンファレンス in Tokyo 2012 教育講演
2012/05/17	第 12 回奈良抗加齢研究会 特別講演
2012/05/13	ドライマウスとアンチエイジングの最前線 講演
2012/04/15	埼玉県病院歯科連絡協議会総会学術講演会
2012/03/25	日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会
2012/03/18	第 8 回日本歯科産業学会 春季大会
2012/03/04	日本ドライシンドローム学会発足記念講演会
2012/03/02	まごころ館四道開設記念セミナー
2012/02/10	スマイルアップあだちちゅうりっぷ体操完成記念講演会
2012/02/07	株式会社第一興商ブロック長会議 特別講演
2011/12/10	第 9 回日本機能性食品医用学会・総会 教育講演
2011/12/03	アンチエイジングフェスタ 2011 抗加齢医学の実践 シンポジウム 3
2011/11/27	第 6 回日本美容抗加齢医学会 パネル 2
2011/11/04	鶴見大学「先制医療研究センター」設立記念シンポジウム

2011/11/02	新宿区牛込保健センター歯科講演会
2011/10/23	第 1 回抗酸化歯科研究会学術講演会 講演
2011/10/22	戸塚泉栄 3 支部合同学術講演会
2011/10/07	日本香粧品学会 第 36 回教育セミナー 講演
2011/09/10	上越・柏崎地区学会 講演
2011/09/03	5th SFRF-ASIA 8th ASMRM 11th J-mit CoQ Session
2011/07/17	第 26 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 特別講演 1
2011/07/09-10	富士見会研修会
2011/07/03	第 27 回兵庫県歯科医学会 特別講演
2011/06/11	第 29 回日本顎咬合学会学術大会・総会 教育講演 1、テーブルクリニック セッション 4

2011/06/02	神奈川県保険医協会歯科部会 2011 年 6 月度 歯科臨床研究会
2011/05/27	第 11 回日本抗加齢医学会総会・学術大会 教育講演 1、アフタヌーンセミナー 4
	静岡県保険医協会市民公開講座
2011/02/27	平成 22 年度東京都町田市歯科医師会市民公開講座
2011/02/20	日本抗加齢医学会エデュケーションalseminar
2011/02/15	平塚歯科医師会第 4 回市民公開講座
2011/01/30	松本歯科大学校友会神奈川支部学術講演会
2011/01/22	太田新田歯科医師会第 11 回市民公開講座
2011/01/16	日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会
2010/11/29	寺尾地区・寺尾第二地区合同研修会
2010/11/28	東京歯科保険医協会第 6 回「歯と健康」フォーラム
2010/11/28	第 8 回国際顎頸蓋機能学会日本部会学術大会 教育講演
2010/11/27	西宮市歯科医師会秋の学術講演会
2010/11/25	鎌ヶ谷市 平成 22 年度いい歯の日講演会
2010/11/20	よこはま大学開港塾 2010
2010/11/12	新宿区牛込保健センター 口腔乾燥症（ドライマウス）講演会
2010/11/11	第 64 回日本臨床眼科学会内専門別研究会

2010/11/06	オキュラーサーフェス研究会 第 30 回ドライアイ研究会
2010/11/06	昭島市民公開講座 第 14 回歯の保健衛生講習会
2010/11/01	第 4 回見た目のアンチエイジング研究会講演会
2010/11/01	千代田保健所 平成 22 年度 円元からアンチエイジング教室 講演
2010/10/30	福山地区歯科衛生連絡協議会 平成 22 年度中高年歯科保健講演会
2010/10/22	Molecular Jungle 2010 特別講演
2010/10/16	特定非営利活動法人口腔医科学会 平成 22 年度 第 14 回学術大会 招待講演

2010/10/02	佐世保臨床歯学研究会
2010/09/29	藤沢歯科臨床懇話会 講演
2010/09/28	Asia Innovation Forum サテライトプログラム（スピーカー）
2010/09/21	第 52 回歯科基礎医学会 学術大会・総会 メインシンポジウム 1
2010/09/17	第 3 回ナノバイオメディカル学会大会 特別講演
2010/09/09	第 19 回日本シェーグレン症候群学会 シンポジウム 1
2010/09/06	近畿バイオインダストリー振興会議

2010/09/04	第 2 回 生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会
2010/08/07	西日本新聞社主催 市民公開講座
2010/07/31	河北新報社主催 市民公開講座
2010/07/31	第 20 回日本口腔粘膜学会総会・学術集会 ランチョンセミナー
2010/06/27	北海道新聞社主催 市民公開講座
2010/06/26	三原市歯科医師会学術講演会
2010/06/20	茨城県保険医協会講演会
2010/06/13	第 10 回日本抗加齢医学会総会・学術大会 ランチョンセミナー 17
2010/06/06	第 44 回愛歯のつどい 講演
2010/05/30	静岡新聞社・静岡放送主催 市民フォーラム
2010/04/18	日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校同窓会 講演
2010/03/28	世田谷区民向け講演会
2010/03/14	鹿沼ロータリークラブ 50 周年記念式典・祝賀会記念講演
2010/02/24	東京都三鷹市歯科医師会学術講演会
2010/02/22	龍門グループパートナー会賀詞交換会講演会

2010/02/18	新潟ドライマウス学術講演会 特別講演
2010/02/06	伊勢丹セミナーエイジングケアスペシャル対談
2010/01/22	第 43 回日本無菌生物・ノートバイオロジー学会総会 特別講演
2009/12/20	歯細胞バンク第 1 回ワークショップ
2009/12/13	口腔感染症フォーラム 2009
2009/12/11	東京都牛込歯科医師会 スタディ会
2009/11/21	広島市民向けフォーラム 口腔ケアとアンチエイジング 講演
2009/11/20	第 6 回日本口腔ケア学会総会・学術大会 シンポジウム 11
2009/11/19	第 20 回 セルコバの会 学術講演会
2009/11/18	第 584 回 東京松風歯科クラブ例会
2009/11/08	板橋区・東京都板橋区歯科医師会主催講演会
2009/11/07	第 9 回平成 21 年度都民向け講演会
2009/10/31	福島県保険医協会歯科学術研究会
2009/10/28	東京都世田谷区歯科医師会学術講演会
2009/10/24-25	伊勢丹セミナー
2009/10/03	日本咀嚼学会第 20 回記念大会 シンポジウム 1
2009/09/21	抗加齢医学の実際 2009 Lecture3
2009/09/13	09 丹青会セミナー
2009/08/30	東京形成歯科研究会認定講習会
2009/08/20	国立長寿医療センター平成 21 年度口腔ケア研修会
2009/08/07	金沢膠原病フォーラム
2009/07/05	大阪府歯科衛生士会研修会
2009/07/02	第 2 回神奈川アンチエイジング研究会
2009/06/13	置賜地区歯科医師連合会学術講演会
2009/06/05	第 19 回日本口腔粘膜学会総会・学術集会 シンポジウム 1
2009/06/04	品川シルバー大学
2009/05/31	日本全身咬合学会第 15 回認定研修セミナー
2009/05/30	第 1 回泌尿器抗加齢医学研究会講演
2009/05/29	第 9 回日本抗加齢医学会総会・学術大会 シンポジウム 11
2009/05/08	第 8 回多摩川フォーラム特別講演
2009/05/07	東京南ロータリークラブ例会
2009/04/26	株式会社伊勢丹セミナー
2009/04/18	第 4 回相模原市・大和市整形外科医会学術研修会
2009/03/27	株式会社ロッテ中央研究所 講演会
2009/03/12	統合医療展 2009 医療実践セミナー
2009/02/14-15	大阪大学歯学部同窓会第 6 回歯科臨床セミナー
2009/01/30	第 6 回日本コエンザイム Q 協会研究会 特別講演
2009/01/25	上都賀歯科医師会 学術・公衆衛生 合同研修会
2008/12/06	東京都滝野川歯科医師会学術研修会
2008/11/30	日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会
2008/11/22	第 4 回日本抗加齢医学会北海道研究会講習会
2008/11/19	東京都調布市歯科医師会学術講演会
2008/11/16	第 12 回上小「いい歯の日」フェスタ 特別講演
2008/11/16	板橋区・板橋区歯科医師会平成 20 年度歯科講演会
2008/11/15	第 21 回日本歯科医学会総会サテライトシンポジウム 2
2008/11/14	第 27 回中村いやし会の会 特別講演
2008/11/09	愛知県歯科医師会平成 20 年度学術講演会
2008/11/05	東京都小金井市歯科医師会 市民公開講座
2008/10/25	日本大学松戸歯学部公開講座
2008/10/19	第 60 回近畿北陸地区歯科医学大会 特別講演
2008/10/09	リカルデントプレスセミナー
2008/10/04	岩手医科大学平成 20 年度 ハイテクリサーチプロジェクト研究成果発表会 特別講演
2008/10/02	横浜市鶴見区介護予防週間講演会
2008/09/04	山武都市歯科医師会学術講習会
2008/08/23	第 1 回日本口腔検査学会総会・学術大会 特別講演
2008/07/11	東京医科歯科大学歯学部附属病院看護部教育委員会 特別講演
2008/06/19	第 19 回日本老年歯科医学会総会・学術大会内 日本老年医学会・日本学術会議合同 公開シンポジウム
	第 5 回泌尿器領域の医療とケア研究会
2008/06/18	相模原市歯科医師会 歯の衛生週間事業 講演
2008/05/31	平成 20 年度十日町口腔科学アカデミー学術講演会
2008/05/21	国立市歯科医師会学術講演会
2008/04/26	第 51 回日本歯科理工学会学術講演会 公開シンポジウム
2008/04/17	第 62 回日本口腔科学会学術集会
2008/04/16	SUPPLY EXPO JAPAN 健康原料・素材・OEM 展 2008
2008/03/22	群馬県食・嚥下研究会 摂食機能療法と栄養管理セミナー
2008/03/18	統合医療展 2008 医療実践セミナー
2008/03/16	アドバイザーミーティング
2008/02/24	香川県歯科医師

Achievements

2000年代前半

2007/09/23 第5回日本再生歯科医学会 特別講演
2007/09/17 抗加齢医学の実際 2007
2007/09/13 渋谷区歯科医師会第1回学術講演会
2007/08/31 第49回歯科基礎医学会シンポジウム4
2007/08/26 松風歯科クラブ臨床講座
2007/07/14 群馬摂食・嚥下研究会 摂食・機能療法と栄養管理セミナー 2007
2007/07/05 第17回日本口腔粘膜学会総会 シンポジウム
2007/06/29 北海道医療大学個体差健康科学研究所セミナー
2007/06/10 福島県歯科医師会第1回「口腔と全身疾患の関係」学会
2007/05/12 日本アンチエイジング歯科学会第2回学術大会 基調講演
2007/04/22 福井県歯科医師会学術講演会
2007/04/07 第27回日本医学会総会
2007/04/01 日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会
2007/03/30 健康博覧会 2007 記念セミナー
2007/03/22 Anti-Aging Medicine in Asia from Middle East to Japan
2007/03/20 株式会社なとり社内講習会
2007/03/14 東京都中央区京橋歯科医師会学術講演会
2007/02/25 兵庫県保険医協会歯科定例研究会
2007/02/22 第246回宮城県保険医協会研究会
2007/02/04 日本大学松戸歯学部大学院セミナー
2007/01/27 飯田下伊那臨床研究懇談会学術懇談会
2007/01/24 東京大学大学院医学系研究科コカ・コーラ抗加齢医学講座 第五回加齢医学セミナー

2006/12/10 銚子市歯科医師会学術講演会
2006/12/07 群馬県歯科保健大会県民講座講演
2006/12/02 平成18年度東京都歯科医師会都民向け講演会
2006/12/01 第16回食と健康研究会
2006/11/27 東京都台東区浅草歯科医師会第2回学術講演会
2006/11/20 東京医科歯科大学第12回大学院歯医学総合研究科大学院セミナー
2006/11/17 城東歯科医師会学術講演会
2006/11/14 東京インプラントソシエーション第97回勉強会
2006/11/12 千葉県歯科医師会デンタルスタッフセミナー
2006/11/09 船橋市歯科医師会市民公開講座
2006/11/05 第59回栃木県歯科医学会 特別講演
2006/11/01 横浜市神奈川区歯科医師会学術講演会
2006/10/28 鶴見大学歯学部同窓会九州支部学術講演会
2006/10/25 瀬谷歯科医師会学術講演会
2006/10/24 東京都立心身障害者口腔保健センター歯科衛生士集団研修会
2006/10/15 鶴見大学歯学部同窓会茨城県支部学術講演会
2006/10/14 第5回日本国際歯科大'06 歯科衛生士シンポジウム
2006/10/02 新宿区四谷保健センター講演会
2006/09/13 神戸市垂水区歯科医師会垂水会 講演会
2006/09/10 平成18年度稲沢市歯科医師会学術講習会
2006/08/25 足立区歯科医師会歯科医療研究部 ADE 会
2006/08/20 明海大学歯学部同窓会学術研修会
2006/08/19 第59回北海道歯科学術大会 特別講演
2006/08/18 第17回日本口腔病理学会総会・学術大会 セミナー
2006/07/28 国立長寿医療センター NILS セミナー
2006/07/23 東京医科歯科大学歯科同窓会学術部講演会
2006/07/09 第4回フリーラジカルセミナー
2006/07/02 東京アンチエイジングレビュー 2006
2006/06/18 日本大学歯学部同窓会生涯教育研修セミナー
2006/06/03 第5回九州シェーグレン症候群研究会 特別講演
2006/05/28 U C L Aインプラントアソシエーションジャパン 第2回講演会
2006/05/14 第8回山口摂食嚥下技術セミナー
2006/05/11 前橋市歯科医師会学術講演会
2006/03/23 宮城ドライマウス講演会 特別講演
2006/03/18 大阪大学歯学部同窓会第357回臨床談話会
2006/03/03 APPI ANTI AGING CLUB 2006
2006/02/19 小石川・文京区歯科医師会区民と歯科医師会のつどい
2006/02/19 日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会
2006/02/16 日本食品機械研究会オーラルケア研究の最新線と食品開発
2006/01/24 平成17年度福井ライフ・アカデミー現代課題講座1
2006/01/21 平成17年度長崎県歯科医師会学術研修会
2006/01/15 第3回介護予防勉強会〜口腔機能向上〜
2006/01/08 第307回総合医療開発研究会特別講座
2005/11/20 第23回日本歯科東洋医学会学術大会 特別講演
2005/11/19 東京都深川歯科医師会学術講演会
2005/11/13 第44回広島県歯科医学会・第89回広島大学歯学会 特別講演
2005/11/12 AEP 日本歯内歯周管理学会発足 25周年記念大会 特別講演
2005/10/30 西さつぱろ予防歯科ネットワーク・PHD 研究会主催ドライマウス講習会
2005/10/29 札幌歯科医師会平成17年度第3回学術講演会
2005/10/28 professionalcare 8000 コクラン再評価記念講演会
2005/10/15 第22回日本障害者歯科学会ランチョンセミナー
2005/09/18 東京医科歯科大学歯学部附属歯科衛生士学校同窓会公開講座
2005/09/02 第8回日本組織工学会総会 ランチョンセミナー 3
2005/07/24 茨城県三大学学術講演会
2005/07/23 富士市歯科医師会学術講演会
2005/07/14 伊勢崎佐波歯科医師会 学術講演会
2005/06/29 東京都江戸川区歯科医師会在宅訪問委員会講習会
2005/06/25 日本解剖学会関東支部第15回懇話会（シンポジウム）特別講演
2005/06/23 埼玉県歯科医師会女性歯科医学会 講演会
2005/06/04 第18回シェーグレン症候群患者会総会「シェーグレンの会」
2005/05/21 特定非営利活動法人フューチャー 講演会
2005/04/24 第7回山口摂食嚥下技術セミナー
2005/04/23 シェーグレン症候群セミナー教育講演
2005/04/21 日本口腔科学会総会シンポジウム

2005/04/14 第94回日本病理学会総会ワークショップ
2005/03/11 平成16年度歯科用医薬品情報担当者講義 特別講義
2005/03/06 徳島県歯科衛生士会生涯研修専門研修！研修会
2005/02/24 東京都日本歯科大学校友会第2回学術講演会
2005/02/19 日本歯科大学校友会浦和支部学術講演会
2005/02/18 財団法人横浜産業振興公社第88回産学交流サロン
2005/02/06 松本歯科大学千葉県校友会講演会
2005/01/29 広島市歯科医師会学術研修会
2005/01/26 葛飾区歯科医師会地域医療講演会
2005/01/16 岡山県保険医協会第179回プライマリケア懇話会
2005/01/16 第67回歯科ポストグラデュエートコース
ウエルテック講演（バイオエクストラ発表会）

2004/12/16 船橋歯科医師会特殊歯科学術講演会
2004/12/02 第4回昭和大学歯学部同窓会ポストグラデュエートセミナー
2004/11/28 東京都町田市歯科医師会平成16年度第2回学術講演会
2004/11/23 香川保険医協会医科歯科合同セミナー
2004/11/13 秋田市歯科医師会 平成16年度第2回学術研修会
2004/11/11 第2回北九州ドライマウス研究会 特別講演
2004/10/30 大阪デンタルショー
2004/10/16 日本ヘルスケア歯科研究会第8回ヘルスケアシンポジウム
2004/10/03 学校法人総持学園創立80周年記念
鶴見大学同窓会第59回ポストグラデュエートコース
岡崎歯科医師会学術講演会
2004/09/12 第10回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会
ランチョンセミナー 1

2004/08/22 日本歯科先端技術研究所関東東甲信越地区勉強会外来講師講演会
2004/07/11 松本歯科大学校友会東京都支部総会講演会
2004/07/03 鶴見大学歯学部千葉県支部同窓会学術講演会
2004/06/20 西京歯科衛生士専門学校講演会
2004/06/13 第21回兵庫県歯科医学大会 特別講演
2004/06/12 第22回日本顎咬合学会学術大会 テーブルクリニック
2004/05/30 第35回青梅市民健康の集い
2004/05/20 社団法人日本総合歯科協会研修講演会
2004/04/04 シロクス学ぶ会特別講演会
2004/03/19 渋谷区歯科医師会第4回学術講演会
2004/03/18 第6回神奈川県シェーグレン症候群研究会 特別講演
2004/03/14 文京区・小石川歯科医師会 区民と歯科医師会の集い
2004/03/09 有楽町講演会
2004/02/26 第3回埼玉シェーグレン症候群研究会 特別講演
2004/02/22 和歌山県保険医協会 学術講演会
2004/02/08 松本歯科大学校友会 2003 卒後セミナー
2004/02/05 常滑市歯科保健研修会
2004/01/29 横浜市歯科医師会病院連携に伴う研修会
2004/01/24 デンタルセミナー 462 回例会
2004/01/18 愛媛県歯科医師会学術講演会
2003/12/04 川崎市耳鼻咽喉科セミナー
2003/11/30 上田小県歯科医師会 講演
2003/11/09 歯の健康フォーラム 21 第3回シンポジウム
2003/09/17 品川歯科医師会 講演
2003/08/31 鶴見大学歯学部同窓会兵庫県支部学術講演会
2003/08/02 松本歯科大学大阪支部講演会
2003/07/23 青梅保健所 講演
2003/07/19 横浜市青葉区歯科医師会学術講演会
2003/07/13 鶴見大学歯学部同窓会愛知県支部学術講演会
2003/05/23 東京都牛込歯科医師会
2003/01/30 東京都西多摩歯科医学会第3回学術講演会
2002/11/13 神奈川歯科大学学術懇話会
2002/06/19 第14回松本歯科大学総合歯科医学研究所 講演
2002/06/18 第14回松本歯科大学総合歯科医学研究所特別講演

メディア・出版

■テレビ・ラジオ

2020/11/09 「あさいち『オーラルフレイルを食い止める!』」(NHK 総合)
2020/10/10 「チコちゃんに叱られる!」(NHK 総合)
2020/10/09 「チコちゃんに叱られる!」(NHK 総合)
2020/07/21 「ドクターサロン『ドライマウス』」(ラジオ NIKKEI)
2020/06/15 「美と若さの新常識 カラダのヒミツ『ドライシンドロームを防げ! 粘膜美人の秘けつ』」(NHK BS プレミアム)

2020/06/11 「美と若さの新常識 カラダのヒミツ『ドライシンドロームを防げ! 粘膜美人の秘けつ』」(NHK BS プレミアム)
2020/10/08 「美と若さの新常識 カラダのヒミツ『カラオケパワーで肺も血管も美しく』」(NHK BS プレミアム)

2019/02/04 「あさいち『年とともに忍び寄る“歯”のトラブル』」(NHK 総合)
2018/08/11 「ガッテン!『免疫力アップ&口臭予防! 唾液/ワウ全開SP』」(NHK 総合テレビ)
2018/07/04 「ガッテン!『免疫力アップ&口臭予防! 唾液/ワウ全開SP』」(NHK 総合テレビ)
2018/04/13 「てっぺん!『死に至る!？口のトラブル最新線』」(テレビ静岡)
2018/02/18 「健康カプセル! ゲンキの時間『鼻つまり』」(TBS テレビ)
2018/02/14 「1周回って知らない話『出川&直美 最新技術で肉体检診SP』」(日本テレビ)
2017/09/11 「おはよう日本：おはようビタミン『カラオケ新時代』」(NHK)
2017/06/06 「笑顔とガムでハッピーに?」(TBS ラジオ)
2016/11/01 「この差って何ですか? 2時間スペシャル『唇が「乾燥しやすい人」と「乾燥しにくい人」の差』」(TBS)
2016/09/24 「教えて! 坂上クリニック『ドライマウス』」(フジテレビ)
2016/06/03,17,27, 07/01

「ラジオ深夜便『わたし終いの極意：口腔ケアで心も身体も健やか』」(NHK ラジオ)
2016/04/16 「ぶらちなライフ-人生楽笑!『「有備無患」ドライマウスに注意! 唾液の意外な役割とは?』」(東京 MXTV)

2016/02/12 「団塊スタイル『歌って心も体も若返る!』」(NHK Eテレ)
2016/02/07 「健康カプセル! ゲンキの時間『「内」と「外」から対策せよ! 実は恐ろしい冬の乾燥』」(TBS テレビ)

2016/01/25 「スッキリ!!『週間からだニュース ドライマウス』」(日本テレビ)
2015/12/26 「華大の知りたい! サタデー『カラオケで若返る!?!』歌うことで唾液の量が増え健康増進ストレスが減り免疫力改善 筋肉増強で誤嚥防止にも」(BS フジ)
「華大の知りたい! サタデー『風邪をひく原因は『ドライマウス』!?!免疫力の最前線、粘膜を乾燥から守れ!』」(BS フジ)

2015/11/17 「L4YOU!」(テレビ東京)
2015/10/23 「団塊スタイル『歌って心も体も若返る!』」(NHK Eテレ)
2015/06/30 「垣花正 あなたとハッピー『名医が登場 有楽町ハッピークリニック 一歌って老化を食い止めよう!』」(ニッポン放送)

2015/03/10 「日経 朝とく『ドライマウスの予防と改善法』」(BS ジャパン)
「あさいち『万病のもと ドライマウス』」(NHK 総合)
2015/01/22 「森本親郎スタンバイ」(TBS ラジオ)
2014/12/06 「週刊 ニュース深読み」(NHK 総合)
2014/12/01 「スーパー」チャンネル(テレビ朝日)
2014/11/09 「駆け込みドクター! 運命を変える健康診断」(TBS テレビ)
2014/05/23 「団塊スタイル」テーマ「老化防止は口と歯から」(NHK Eテレ)
2014/01/08 「ためしてガッテン『風邪インフルエンザさらば 体の中から改造! 計画』」(NHK 総合テレビ)
2013/11/09 「未来へのおくりもの」(BS-TBS テレビ)
2013/11/05 「おはよう日本『ケンコン!』コーナー「健康寿命を延ばそう! 口から始めるアンチエイジング!」(NHK 総合テレビ)

2013/10/13 「健康カプセル! ゲンキの時間『テーマ「睡眠障害』」(TBS テレビ)
「ためしてガッテン『まさか! 危険すぎる二重あご』」(NHK 総合テレビ)
2013/04/14 「最新人体ミステリー-シンドロームX」(TBS テレビ)
2013/02/07 「はなまるマーケット『特集「口のアンチエイジング ～歯周病・ドライマウス～」』」(TBS テレビ)

2012/10/21 「健康カプセル! ゲンキの時間 #29〜奥うほどに要注意!〜 意外と怖い「歯周病」の真実」(TBS テレビ)

2012/01/16〜20 「生島ヒロシのおはよう定食『健康のひるば』“現代病ドライマウスを治す”」(TBS ラジオ)

2011/09/22 「情報プレゼンター とくダネ!『新常識 ニッポンの医療』」(フジテレビ)
2010/12/16 「スパモク! ! 常識逆転/バラエティ! 運命の選択! ! 『若返り力』」(TBS テレビ)
2010/11/19 「ラジオ深夜便 明日へのことば『歯むことの再発見』」(NHK ラジオ第1)
2010/07/08 「私も一言! タワニュース『ドライマウス-知っていますか?』」(NHK ラジオ第1)
2010/06/08 「つながるラジオ『ラジオ井戸端会議』『若さを保つ秘訣はなんですか? 老化は口に現れる?』」(NHK ラジオ第1)

2010/05/29 「世界一受けたい授業「た波と寿命の新事実! ? 口からはじめるアンチエイジング!」」(日本テレビ)
2009/11/26 「スーパーモーニング「スパモ二家庭の医学 ドライマウス」」(テレビ朝日)
2008/11/25 「やじうまプラス「なるほど」知りたい白書」」(テレビ朝日)
2008/10/16 「スーパー」チャンネル「木曜特集「口の渴きは病です! もしやアナタもドライマウス」」(テレビ朝日)

2008/05/20 「たけしの本当は怖い家庭の医学「テーマ(1) 本当は怖い飲みみにくさ〜ひび割れの器〜/(2) 知られざる唾液の働きに注目」」(テレビ朝日系列)
2008/05/16 「解体新ショー『酸っぱいもので唾液が出ちゃうのはなぜ?』」(NHK 総合テレビ)
2007/07/10 「日本歯科医師会生涯研修番組『歯科医の時間』“ドライマウス”」(ラジオ NIKKEI)
2007/02/06 「日本歯科医師会生涯研修番組『歯科医の時間』“ドライマウスの診断と対処”」(ラジオ NIKKEI)

2006/07/12 「スーパー」チャンネル「ドライマウス」(テレビ朝日)
2006/06/05 「生活ほっとモーニング「気になる口臭解消法」」(NHK 総合テレビ)
2006/01/21 「報道特捜プロジェクト「みんなの悩み 口臭」」(日本テレビ)
2005/11/29 「ズームイン! ! S U P E R『暮らしの素。ドライマウス』」(日本テレビ)
2005/09/19 「スーパーモーニング「ドライマウス」」(テレビ朝日)
2005/08/07 「発掘!あるある大辞典II『あなたの身体は損だらけ、毒抜きで体質改善』」(フジテレビ)

2003/12/11 「はなまるマーケット『今日の目玉「だ波を増やして万病予防!」』」(TBS テレビ)
2002/11/30 「カウントダウンコネクションズ『ドライマウス』」(FM 東京)
2002/10/30 「首都圏ネットワーク」(NHK 総合テレビ)
2002/10/23 「薬学の時間『ドライマウス』」(ラジオたんぱ)
2002/08/12 「ピートたけしのTVタックル『口腔乾燥症』」(テレビ朝日)
2002/08/03 「スーパーニュースウィークエンド得情報『口腔乾燥症について』」(フジテレビ)
2002/07/29 「情報プレゼンターとくダネ!『口腔乾燥症について』」(フジテレビ)

■新聞・記事・WEB掲載

2020/07/15 「音健協 News 鼎談 新しい生活様式における『うたと音楽』を考える」(音健協通信、2020 年夏号)
2020/06/30 「『うたと音楽』で笑顔を取り戻そう! 心をつなぐ新たな日常がここに」(毎日新聞)
2019/06/30 「人生 100 年時代の健康寿命延伸 自然の恵みを活かし健康経営実現目指す」(西日本新聞)

2019/06/17 「乳酸菌サプリに悪玉菌抑制効果 かねろく製薬 口腔内ケアに期待」(中部経済新聞)
2019/06/13 「口腔内カンジダ菌抑制 乳酸菌サプリ鶴見大と臨床試験」(日刊工業新聞)
2019/06/11 「乳酸菌サプリでカンジダ菌抑制 鶴見大学が臨床試験」(日本歯科新聞)

2019/05/13 「老化防止に口の健康大切」(新潟毎日)
2019/03/29 「患者を生きる ドライマウス 5」(朝日新聞)
2019/02/22 「アンチエイジングは歯から、口から、笑顔から」(WEB エイジングスタイル)、

2010年代後半

@nifty ニュース、Ameba News、dメニュー、goo ニュース、livedoor ニュース、緑の goo)
2019/01/26 「見た目も口の中もアンチエイジング【第 3 回日本抗加齢医学会メディアセミナー】」(WEB エイジングスタイル)
2019/01/25 「日本抗加齢医学会 2018 年度 第3回メディアセミナー」(JMS/JAPAN MEDICAL SOCIETY、JMS、February 2019)
「カラダづくり 口の渴き ドライマウス?」(日本経済新聞、NIKKEI プラス1)
2018/07/31 「カラオケ療法 歯学部が実証 嚥下力をアップし、ストレスを抑える」(日刊ゲンダイ)

2018/03/ 「明日からの臨床上に役立つ乳酸菌の活用法〜乳酸菌 EF-2001 免疫機能と腸内フローラへのアプローチ 薬学・歯学・医学の3博士が語る乳酸菌最新事情」(かねろく製薬かわら版、2 0 1 8 年 1 月 21 日開催セミナーレポート)

2017/11/14 「健活手帖『放置してはいけないドライマウス』」(夕刊フジ特別版)
2017/09/07 「大声出してストレス発散! 認知症予防や免疫力 UP も 歌わに損! SONG♪」(サンケイスポーツ)

2017/07/11 「専門家が解説。笑顔が幸せを引き寄せる! その理由とは?」(WEB A-Beauty by @cosme)

2017/06/16 「『笑顔トレーニング』と『そしゃく』でストレス低減」(WEB たべぶろ)
2017/06/09 「『笑顔トレーニング』と『そしゃく』ストレスを低減 鶴見大学、三越伊勢丹 G、ロッテが発表」(日本食糧新聞電子版)

2017/06/02 「鶴見大学・斎藤一郎教授と三越伊勢丹グループ、笑顔トレーニングと咀嚼の組み合わせでストレス低減効果を発表」(Best Times、クレーアップ、とれまがニュース、Kurashinista、東洋経済オンライン、おたくま経済新聞、産経アプスタ、フレッシュアイ、美容経済新聞セレクト、SEOTOOLS ニュース、President、Online、現代ビジネス、Straight Press、産経ニュース、ジョルダンニュース 1、OKGuide、MarkeZine、オリコンスタイル、Joshi+、時事ドットコム、Eltha、Biglobe ニュース、朝日新聞、Mapion、PR TIMES、プレスリリース - Infoseek ニュース、Cube ニュース - CubeSoft、財經新聞、日本ビジネスプレス、ダイヤモンド・オンライン (DiamondOnline)、エキサイト)

2017/06/02 「鶴見大学・斎藤一郎教授と三越伊勢丹グループ、笑顔トレーニングと咀嚼の組み合わせでストレス低減効果を発表」(PRESIDENT Online)

2017/04/18 「がん・心臓病・脳疾患 街で評判の名医 50 人『健活手帖』9 歯周病と高血圧のただならぬ関係」(夕刊フジ 特別版)

2017/03/09 「滑舌をよくするには口のまわりの筋肉鍛える」(読売新聞)
2016/08/16 「歌って老化を予防する」(産経新聞)
2016/04/26 「(ひらけ! 進路・新路・針路) 老化を「治療」 老いの加速に待った!」(朝日新聞)

2016/01/27 「1 日 1 曲歌って長寿 ストレス発散、心と体を健康に」(産経新聞)
2016/01/27 「口がネバつく人はインフルエンザの危険大 ドライマウス対策が重要」(日刊ゲンダイ)

2016/01/15 「抗加齢歯科医学研究会 ゲストに大場久美子氏 『うたと音楽』の可能性語る」(音健協会通信、2016 年新年号)

2015/12/08 「抗加齢歯科医学研究会設立 10 周年 カラオケで口腔環境改善」(日本歯科新聞)

2015/11/04 「連載：男こそアンチエイジング! カラオケは『口の中』から若返れる?」(WEB 日経トレンドニュース)

2015/11/04 「カラオケで介護予防」(読売新聞)
2015/10/15 「インタビュー 検証 歌唱による口腔機能改善」(音健協通信、2015 年秋号)
2015/10/09 「口が乾くドライマウス、目が乾くドライアイが続いたら、シェーグレン症候群の可能性も」(WEB QLife 医療のニュース・特集)

2015/09/27 「日曜に考える医療 薬の飲み過ぎ・ストレス・・・『口の渴き』高齢者に増える専門外来生活習慣の改善指導」(日経新聞)

2015/07/15 「歌唱からはじめる口腔機能の維持と心身の健康 日本抗加齢医学会総会でセミナー」(音健協通信、2015 年夏号)

2015/04/15 「『うたと音楽』で健康増進 音健協主催シンポに約 500 人参加 鶴見大の斎藤教授が特別講演」(音健協通信、2015 年春号)

2015/03/30 「日本音楽健康協会設立記念シンポ いきいき生きる超高齢社会を目指して うたと音楽で元氣よく」(毎日新聞)

2015/02/18 「玉ねぎ成分で唾液分泌 ドライマウス治療に期待」(高齢者住宅新聞)
2015/02/03 「『ケルセチン』が唾液分泌促す」(WEB 日本歯科新聞)
2015/02/03 「『ケルセチン』が唾液分泌促す ドライマウス治療に期待」(日本歯科新聞)
2015/02/03 「ドライマウス 軽視は禁物」(東京新聞 /TOKYO Web)
2015/02/03 「ドライマウス 軽視は禁物」(東京新聞)
2015/01/31 「鶴見大、玉ねぎに含まれるケルセチンが口の乾燥防止に効果的であることを明らかに」(WEB 財經新聞)

2015/01/30 「中高年に多いドライマウス 玉ねぎ等に含まれる『ケルセチン』で改善 - 鶴見大学」(WEB ケアマネジメントオンライン)

2015/01/30 「玉ねぎ等に含まれる『ケルセチン』でドライマウスを改善 - 鶴見大」(WEB わかる介護)

2015/01/30 「玉ねぎ等に含まれる『ケルセチン』でドライマウスを改善 - 鶴見大 (WEB 歯との健康と美容のニュース)

2015/01/29 「鶴見大、玉ねぎ等に含まれるケルセチンの唾液分泌促進効果を解明」(日本経済新聞電子版)

2015/01/18 「シェーグレン症候群」(聖教新聞)
2015/01/17 「[時鐘] 乾燥と戦う」(山形新聞)
2015/01/16 「侮れないドライマウス 痛みや口臭感染症のリスク増加」(高地新聞)
2015/01/15 「ドライマウス軽視禁物 感染症のリスク増も」(茨城新聞)

2015/01/14 「侮れない ドライマウス」(北海道新聞)
2015/01/13 「鶴見大、唾液量が増加するタマネギ成分を解明」(YAHOO! ニュース)
2015/01/13 「侮れない ドライマウス」(産経新聞)
2015/01/13 「ケルセチンの唾液分泌効果 タマネギ成分で唾液量が増加」(日本経済新聞朝刊)
2015/01/13 「健康医療 ドライマウス侮るな 薬効、作用も「原因多様」(佐賀新聞)
2015/01/13 「ドライマウスに注意 ストレスを老化して重症化で感染症の恐れも」(山陰新聞夕刊)

2015/01/13 「侮れないドライマウス 複合要因で唾液減少」(中部経済新聞)
2015/01/13 「侮れないドライマウス」(東都新聞)
2015/01/12 「鶴見大、唾液量が増加するタマネギ成分を解明」(日経新聞電子版)

Achievements

2017/09/01	「特集1 『ドライマウス』は老化のサイン！？」(えがお手帖 vol.112 保存版、集英社 MyAge/OurAge)
2017/08/21	「めがせ 8020 歯が元気なら体も元気 第 10 回 心身の健康づくりに口周リ筋肉強化を」(NHKテキストきょうの健康、2017年9月号)
2017/06/18	「老化防止最新線 健康寿命は「歯と口」で決まる！」(サンデー毎日、2017.6.18号)
2017/06/01	「季節の養生知恵袋 味覚の変化は老化のサイン！？ 若さの秘訣は“唾液力”にあり」(養命酒製造株式会社、養命酒だより、夏号 2017年6月)
2017/03/13	「健康寿命を延ばす呼吸法」(週刊朝日、3月24日特大号)
2016/11/01	「乾いた口に、恵みの唾液を。増やすが勝ち！唾液健康法」(長寿の里「はな笑み」、VOL.18)
2016/08/01	「口の渇き ネバネバ 口臭の原因にも！中高年に増えている“ドライマウス”とは？」(ヘルシーメイツ SUMMER 2016 NO.140)
2016/06/01	「今月の聞きどころ 私の終いの極意 伝授者③斎藤一郎」(NHK ラジオ深夜便、2016年6月号)
2016/06/01	「健康生活のための口腔ケア お口から健康に！」(スタイルアサヒ、第81号、2016年6月号)
2015/09/16	「老化と病気は『歯と口力』で防ぐ 歯口力の低下は“老化を促進”「命を脅かす」専門医からの警告！」(NHK たまごがッテン秋)
2015/06/02	「タマネギの成分は唾液量を増やし肺炎や感染症を招くドライマウスの改善に期待大」(安心、2015年7月号)
2015/05/21	「口の乾き・舌の痛み ドライマウス」(NHK きょうの健康、2015年6月号)
2015/04/16	「唾液量が増加！タマネギの成分は口臭や肺炎を招くドライマウスを撃退する効果大」(壮快 2015年6月号)
2015/03/11	「特集 超高齢社会におけるドライマウスへの対応 いま、ドライマウスにどう取り組むべきか」(日本歯科評論 No.869 Vol.75(3))
2015/03/01	「健康相談室 Q&A ドライマウス」(ヘルスアンドライフ 2015 3月号 第364号)
2015/03/01	「タマネギ成分が唾液量を増やす」(化学 MARCH2015 VOLUME70)
2014/11/24	「唾液の力でインフルエンザ予防」(アエラ No.51)
2014/10/07	「Health Talk 適切なケアと好奇心で“昨日より健やか”を実践中 風吹ジュンさん×斎藤一郎さん」(NHK 団塊スタイル これでストップ！私の我慢 おとなスタイル、秋号、2014.10.7)
2014/10/07	「ドライマウスが全身の健康に影響する！？ 『歯と口の健康』が若々しさを保つてくれた」(NHK 団塊スタイル これですトップ！私の我慢 おとなスタイル、秋号、2014.10.7)
2014/10/06	「大人の笑顔は『歯』で決まる！ 口の中のアンチエイジングが、全身の美&元気をサポートしてくれる！ 頼れるドクターの進化型医療」(My Age <マイエイジ>、2014 Autumn Vol.3、2014.10.6)
2014/10/01	「ドライマウスから考える健康長寿 -「口」からはじめる全身の健康増進-」(青淵 第787号、2014年10月号)
2014/09/20	「DRY?WHY?もしかしたら? ドライシンドローム?」(Harper's BAZAAR(ハーバース バザー)、November2014 No.6、2014.9.20)
2014/07	「再録 暮らし&健康とっておき情報 団塊スタイル5/23日放送より「老化防止は口と歯から」(NHK ウォークリステラ、7/19-7/25)
2014/06	「第一章 国連本部での報告会 斎藤一郎 鶴見大学歯学部病理学講座教授(寄稿文」(P.19)。(国連の友 A s i a - P a c i f i c Activity Repot Vol.3)
2014/06/05	「“口腔”から全身の健康を考える」(人間会議、2014年夏号)
2014/06	「A PERFECT SMILE エイジレス美女は、口もと決まる。」(VOGUE JAPANヴォーグジャパン)
2014/05/07	「【口】美と健康の秘薬「唾液」をたくさん出しましょう」(婦人公論)
2014/05	「口臭・味覚障害の原因になるドライマウスにご用心！」(産経新聞社暮らしの百科)
2014/04	「超高齢社会と“からだの乾き”」(月刊事業構想)
2014/02	「SELFCARE TREND ドライシンドローム 口が乾くドライマウス」(へるすあっぷ21、2014.No.352)
2013/10	「特集 未来の医療が始まる●PART2 予防、アンチエイジングへ向かう医療現場 大学病院から発信する新規事業 未来を担うアンチエイジング」(月刊事業構想)
2013/09/05	「内蔵のアンチエイジング 口腔老化度検査を体験 歯周病と心臓、動脈硬化も促進される。」(クワッサン特別編集保存版内蔵・血液と血管のアンチエイジング、P.36-39)
2013/07/11	「続・ぎん言 第12回「長生きしたけりゃ口を動かさんとね」(女性セブン)
2013/07	「多くの人が抱える現代病ドライマウス」(別冊セルフドクター)
2013/05/17	「死ぬまで寝たきりにならない秘伝編集 介護いらずの体をつくる 30の究極の法則 目・耳・口」(週刊朝日)
2013/04/05	「死ぬまで寝たきりにならない新シリーズ第6弾 名医直伝 若さを保つための目・耳・口のケア 15 噛む力の衰えは認知症一直線 歯のケアと口まわりの筋肉強化を」(週刊朝日 増大号)
2013/04	「歯のグラつき・出血 痛みなどがある人 入れ歯で食事に困る人でも噛める歯になる。【革命的】自力ケアが続々見つかりボケまで退き寿命も延びる!」(夢1)
2013/03	「教えて サイトウ先生！リョウ先生！ カルテ#3 もっと動こうキレイになろう！」(ISETAN MITSUKOSHI「プレジール」)
2012	「ドクター Q&A 多くの人が抱える現代病 ドライマウス」(ゆのみ大正製薬ダイレクトコミュニケーションブック) vol.14)
2012/12/01	「特集 体の中から健康チャージ 口から始めるエイジングケア」(季刊セルフドクター、2012年冬号 Vol.063)
2012/11/30	「知って得する！新名医の最新治療 Vol.256 唾液を増やす方法を幾つ組み合わせて治療 ドライマウス」(週刊朝日、2012/11/30日号)
2012/11	「ココロとカラダのアンチエイジング塾 教えて サイトウ先生!リョウ先生! カルテ#2 うるおいのある毎日こそ敵対だ!」(ISETAN MITSUKOSHI「プレジール」)
2012/09/22	「特集 / 読めば若返る!」歯・口 口内の健康はすべての健康につながる。唾液減少にも要注意 「加齢で進むドライマウス体の健康にも重大な影響」(週刊東洋経済、2012 9/22号)
2012/09/10	「元氣アップ講座 口が乾いてネバネバ不快なドライマウスの予防・改善に、エオンザイム Q10のサプリメントが役立つ」(パトス Vol.77)
2012/09	「監修」『Mouth Care & Clean up! 口腔ケアを実践してお口だけじゃないカラダも健康アップ!」(株式会社ライフファクトリー (V&Vフレット))
2012/09	「ココロとカラダのアンチエイジング塾 教えて サイトウ先生!リョウ先生! カルテ#1 均質な老化を 目指そう。」(ISETAN MITSUKOSHI「PLAISIR」)

2012/09	「口の乾き(ドライマウス)が歯周病、胃の不調の原因にも 唾液分泌を促す口元のトレーニング」(旬刊健康管理情報「健康のひろば」、第1798号)
2012/08/25	「Women's clinic 舌痛症」(レタスクラブ、Vol.755)
2012/07	「“不老長美”の土台づくり あなたのその部分、何歳ですか? 第14回「舌」(HERS7)
2012/06/28	「ときめきはアンチエイジングに効くんです」(女性セブン)
2012/06	「ヘルシー&ビューティーの立役者 あなどるななか『だ液』のチカラ」(太陽笑顔 fufufu.. 9号)
2012/05/25	「40歳から始める、内蔵のアンチエイジング 口腔老化度検査を体験 歯周病になると、動脈硬化も促進される」(クワッサン)
2012/05	「特別インタビュー 美しい体を維持するためには「口の健康を維持し『全身の均質な老化』に心がける」(HBRヘルス&ビューティー・レビュー vol.26)
2012/05	「口から考える全身の抗加齢医学」(特別養護老人ホームまごころ館四街道 パンフレット)
2012/04	「関係各科におけるシェーグレン症候群の現状と課題」(P.18-25) (Frontiers in Dry Eye-涙液から見たオキュラーサーフェス Vol.7 No.1 2012.春号)
2012/04	「抗加齢専門医・指導士認定試験のためのQ&A」(P.118-120) (アンチエイジング医学-日本抗加齢医学会雑誌 Vol.8/No.2)
2012/03	「多くの人が抱える現代病 ドライマウス」(季刊ドクターズアイ、2012年春号 vol.24)
2012/03	「多くの人が抱える現代病 ドライマウス」(季刊セルフドクター、2012年春号 vol.060)
2012/03	「口腔と周辺領域まで臨床にたすべき診療の目 ドライマウスが危ない!」(ザ・クインテッセンス 2012 vol.31 no.3)
2012/02	「歯と健康ラボラトリー 口から始めるアンチエイジング」(朝昼晩、日本歯科医師会デンタルマガジン No.29.)
2012/01/31	「口から考える全身の抗加齢(アンチエイジング)医学」(公益財団法人8020推進財団会誌 (はち・まる・にい・まる) No.11)
2012/01/15	「あなたの粘膜、乾いていませんか?」(婦人公論別冊)
2012/01	「新春特集 歯科医療、次は何か? Part5 新たな時代の歯科外来を知る 鶴見大学歯学部附属病院ドライマウス専門外来」(ザ・クインテッセンス 2012 vol.31 no.1)
2011/12/15	「セミナー・イベントレポート ロッテがビタミンB群入りガムの顔貌に対する効果を発表」(食品工業)
2011/10/27	「DHのためのなるほどケンサ学 アンチエイジング医学における全身検査」(DHstyle 07、2011.October、Vol.5 No.63)
2011/10/27	「顔のしわ、あごのたるみも解消 歯科医が指導 1日数分のマウス体操で口から全身の老化を防ぐ」(女性セブン)
2011/10	「鶴見大学歯学部附属病院アンチエイジング外来におけるアンチエイジング医療について」(ANTI-AGING MEDICINE)
2011/10	「読む総合病院 なんでも相談室 舌がピリピリ痛みます」(NHKきょうの健康 10)
2011/08	「口腔乾燥症(ドライマウス)とコエンザイムQ10」(NHK きょうの健康 8)
2011/07	「DHのためのなるほどケンサ学 アンチエイジング医学における口腔ケンサ」(DHstyle 07、Vol.5 No.54)
2011/06	「生活いきいき辞典『口の力』を鍛えよう -よく噛んで健康長寿に」(倫風)
2011/02	「明日へのことば 噛むことの再発見」(ラジオ深夜便)
2011/02	「口のふしぎと歯のふしぎ 14 今さら誰にも聞けないのですが…、唾液の働きって何ですか?」(DHstyle Vol.5 No.54)
2011/01	「口腔から全身の老化を防ぐ」(CLINICIAN (エーザイ株式会社発行) No.594 Vol.58)
2010/11/22	「あなたの粘膜、乾いていませんか?」(婦人公論、NO.1310)
2010/11	「唾液はアンチエイジングの生命線・口の運動と笑顔で若さを保とう」(HBRヘルス&ビューティーレビュー vol.09)
2010/11	「噛む力を育てる…口からはじめるアンチエイジング 唾液は健康のバロメーター。たくさん唾液を分泌する人は元気です!」(百楽)
2010/11	「あんしん診療室 ドライマウス(口腔乾燥症) (あんしんLife Vol.461)
2010/10	「医療界が参戦するエイジング市場最前線 06 歯科大学1! アンチエイジング外来新設の新しい波!」(re-quest/OJ)
2010/09/18	「Review 03 『食べる力』を鍛えてピンピン元気」(週聞東洋経済)
2010/09	「小さな不調Q&A 放っておいても大丈夫? 口の中が乾く」(HERS)
2010/08	「健康長寿の秘訣とその実践法「カロリー制限」が寿命を延ばす」(たのやく vol.79)
2010/05	「軽く見てはいけない『口の渇き』」(毎日が発見、No.76)
2010/02	「監修」『かむかむダイエットでスッキリさせ!』(FYITE No.249)
2010/02	「不快なドライアイ&ドライマウスと上手に付き合う ドライマウス」(日経ヘルスプレミアム)
2010/01	「顔たるみも解消 噛み噛みダイエット」(からだにいいこと)
2009/12	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング最終回」(nico)
2009/11/29	歯髄細胞バンク(週刊朝日 増刊号 新「名医」の最新治療 2010)
2009/11	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング11」(nico)
2009/10/15	「『老化』は口の中にも。気がかりなドライマウス、自分でできるケア法は?」(クワッサン特別編集)
2009/10	「不老は口から(都民向け講演会詳録より)」(東京都歯科医師会雑誌 第57巻第10号)
2009/10	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング10」(nico)
2009/09	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング9」(nico)
2009/09	「正しく噛んで健康的に美しく 噛む噛む「ワーでアンチエイジング」(ポテプラス+)
2009/08	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング8」(nico)
2009/07	「歯とお口からはじめるアンチエイジング」(財団法人8020推進財団発行)
2009/07	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング7」(nico)
2009/06	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング6」(nico)
2009/05/25	「ドライマウス」(WEEKLY プレイボーイ NO.25)
2009/05/21	「不老は口から—口から考える抗加齢医学」(東京南オータリークラブ週報 No.2926)
2009/05	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング5」(nico)
2009/04	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング4」(nico)
2009/04	「高齢者のための—アンチエイジング 口からはじめるアンチエイジング」(Health&Life 2009 Spring)
2009/04	「唾液の分泌を促しドライマウスを予防しましょう」(致知)
2009 春号	「60歳からの健康法 急増するドライマウス～ストレスや薬の副作用が原因に～」(いきいき Vol.33)
2009 春号	「口臭の原因!おクチ乾いてない?口臭・ドライマウス対策」(健康情報)

2009/03	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング3」(nico)
2009/03	「新常識!「噛む」だけで笑顔も小顔も自在!」(bea's UP (ピーズアップ))
2009/02	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング2」(nico)
2009/02	「時計の針を戻す!アンチエイジング最先端哲学 最後の欲望、食欲を満たす口を維持せよ」(addictam opera【アディタム】【オペラ】、No.28)
2009/02	「あなたの健康相談室 ドライマウス」(月刊清流)
2009/01	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング」(nico)
2008/12	「特集 重金属・環境汚染物質から身を守る 歯科領域における有害金属の全身ならびに口腔への影響」(アンチ・エイジング医学—日本抗加齢医学会雑誌、Vol.4 No.6)
2008/12	「アンチエイジングクリニック訪問 鶴見大学歯学部附属病院アンチエイジング外来」(アンチ・エイジング医学—日本抗加齢医学会雑誌、Vol.4 No.6)
2008/11	「カラダの渇きを防ぐ ●唾液が減るとおこる ドライマウス」(へるすあっぷ21)
2008/10/09	「健康 日本人 3000万人以上が患っている!? 口の現代病ドライマウス キミは大丈夫?」(R25、No.211)
2008/10	「特集 新・カラダのふしぎをのぞく [2] ドライマウス なぜ緊張すると口がカラカラになるのだろうか?」(健康ライフ、2 Vol.43)
2008/10	「歯磨きを十分にすることも虫歯や歯周病を繰り返す人は唾液不足が原因で対策 NO.1は大学病院も行う舌鳴らし」(わかさ)
2008/08	「健康最前線 健やか life ドライシンドローム “年だから”とあきらめない乾燥改善は部位別対策で」(月刊ことぶき)
2008/07	「注目の医療・介護増健施設 鶴見大学歯学部附属病院アンチエイジング外来 日本国内、歯学部では初のアンチエイジング専門外来」(暮らしと健康)
2008/07	「食事で行う歯周病&虫歯予防 食べる物で、食べ方でお口を変える!」(日経ヘルス)
2008/06	「"report " 抗加齢医学の重要性を強調! 第2回指導士育成セミナーおよび第6回講習会開催される」(DHstyle、2008.June、Vol.2 No.19)
2008/06	「歯周病の予防が全身のアンチエイジングに!」(日経ヘルスガムエ、創刊2号)
2008/06/01	「口臭・ドライマウス対策 口臭の原因!おクチ乾いてない?」(日経ヘルス特別付録)
2008 冬号	「快口一番 ガムを噛んで?抗酸化物質を配合の「噛む」サプリメントへの夢」(ゆたか)
2007/12	「女性のお悩み解決手帳 24 口臭・ドライマウス対策 口臭の原因!おクチ乾いていない?」(日経ヘルス)
2007/11	「健康づくり Q&A (健康づくり、No.355)
2007/10	「加齢とともに増える「口臭+歯周病」 40代から始める口腔ケア」(日経ヘルスプレミアム)
2007/09	「口腔から実践する抗加齢医学 —新たな歯科医療の展開を求めて—」(栃木県歯科医学会誌 第59巻)
2007/09	「いきいきマイライフ 第33回 若さと健康のもと「唾液」が減少するドライマウス」(まいんど、vol.19)
2007/07	「名医に聞く治療の最前線 ドライマウス(口腔乾燥症)」(毎日らいいふ)
2007/07	「ドライシンドローム撃退キャンペーン第1回 ドライマウス」(からだにいいこと)
2007/07	「歯周病やドライマウスは老化のサイン『口から始めるアンチエイジング』(SUNTORY 美感造形、第58号)
2007/07	「虫歯も歯周病も一気に防ぐ最新テクニック お口の健康はよくかむことから!唾液が口を洗浄、殺菌」(日経ヘルス)
2007 夏号	「快口一番 ちゃんと噛んで?若返りの秘訣 噛んで唾液を出す」(ゆたか)
2007 夏号	「健康相談 Q&A 口が乾いて話しても返りに……。……」(けんぼニュース(健康保健組合))
2007/06/29	ドライマウスと虫歯の怖い関係」(こっくクラブ No.129)
2007/06/29	「ドライマウスと歯周病で高まる誤嚥性肺炎の危機 中高年のための口腔ケア」(健康第一、Vol.5)
2007/06/15	「基調講演特別レポート『口腔から実践する全身のアンチエイジング医学』 骨子」(ti:0、vol.8)
2007/06	「噛めば噛むほど唾液の分泌がよくなる」(へるすあっぷ21、2007.NO.272)
2007/05	「口腔乾燥症を診る」(DENTAL DIAMOND、2007 MAY Vol.32 No.457)
2007/04	「サクセスフル・エイジングへの道(第7回) マウスサインを見逃さないで!」(ロフィシャルジャパン、No.016、April 2007)
2007 春号	「快口一番 口臭大丈夫?増えているドライマウス」(ゆたか)
2007/03/10	「ドライマウス」(日本歯科医師会雑誌、3/10号【第59巻第12号】)
2007/01/31	「ドライマウス(口腔乾燥症)の原因と対処法」(日本大学歯学部同窓会雑誌、第51巻第5号別冊学術特集号 No.22)
2007/01	「いま見直すQOLを重視した医療の役割～生活の質を重視した在宅医療の実現～」(在宅療養高齢者のQOLを高める食事の工夫)(3) (Home Care MEDICINE、2007/Winter)
2006/12	「▼特集▼オーラルケア研究の最前線と食品開発 ドライマウス(口腔乾燥症)～唾液の重要性～」(食品加工技術、Vol.26 No.4)
2006/12	「更年期から始まる7 口の乾きが気になったら、ドライマウスを疑ってみる。」(クワッサン特大号、12/10)
2006/10/15	「アンチエイジング8 歯科からのアンチエイジング」(食品工業)
2006/10	「口腔は健康の窓口② ドライマウスの症状と原因」(THE Neighbor、VOL.392)
2006/10	「いま見直すQOLを重視した医療の役割～生活の質を重視した在宅医療の実現～」(在宅療養高齢者のQOLを高める食事の工夫)(2) (Home Care MEDICINE、2006Autumn)
2006/09	「口腔は健康の窓口① 口腔の仕組み」(THE Neighbor、VOL.391)
2006/08/10	「話題のアンチエイジングクリニックを体験 人間ドックではわからない、あなたのカラダ年輪。」(クワッサン、8/10号)
2006/08/10	「第2回抗加齢歯科医学研究会が開催される」(日本歯科評論 No.766 Vol.66(8))
2006/08	「1年で1歳若返るアンチエイジング大研究 口の渇きは危険信号!気づかないと怖い「ドライマウス」の危険から身を守る」(週刊)
2006/08	「口腔から全身を考えるアンチエイジング医学の実践」(ZOOM UP、No.123)
2006/08	「連載 口からはじめるアンチエイジング ドライマウスは老化の兆候」(アンチ・エイジング医学、Vol.2 No.3)
2006/08	「口の中にも“老化”はあります、いまから始めるケア法。」(クワッサン、8/10号)
2006/07/28	「あなたを癒す第27回 医心伝身」(週刊ポスト)
2006/07/14	「名医の最新治療 75 女性の病気7 シェーグレン症候群」(週刊朝日)
2006/07/10	「新連載 更年期から始まる2 女性ホルモンが減り始めたら歯周病予防は欠

2006/07	「年をとらない年のとり方 口からはじめるアンチエイジング3」(nico)
2006/07	「いま見直すQOLを重視した医療の役割～生活の質を重視した在宅医療の実現～」(在宅療養高齢者のQOLを高める食事の工夫)(1) (Home Care MEDICINE、2006Summer)
2006/07	「不老への挑戦 口腔から全身医療へ」(Medi Café、Vol.1 No.2)
2006/06/28	「連載 科学的運動のすすめ⑤ 口腔筋機能療法による顔顔面周囲筋のトレーニング」(アンチエイジング医学 Vol.2 No.2)
2006/06/28	「更年期からの女性はとくにご用心。あなたに乾燥注意報!」(いきいき)
2006/06/28	「"口内環境"UP大作戦!!」(日経ヘルス)
2006/06/25	「ドライマウスについて知ろう」(わくわくからだ探検 第1集)
2006/06/08	「女のカラダ SOS 第31回 口臭」(女性セブン)
2006/06/01	「百科雑乱—特別外来めぐり カラダの危険信号「ドライマウス外来」(週刊新潮)
2006/05/5-12	「医療シリーズ 中高年を中心に急増する現代病 ドライマウス特集」(週刊朝日)
2006/05	「動き出した抗加齢歯科医学の現状」(DENTAL DIAMOND、Vol.31 No.441)
2006/05	「特色のある"専門ドック"—大学病院でフルチェック!アンチエイジング外来—」(美的)
2006/05	「行ってきました、専門外来 第05回ドライマウス外来—鶴見大学歯学部附属病院」(Nursing Today)
2006/04/10	「現代・口腔外科治療のクライテリア 口腔乾燥症(ドライマウス)の診断と対処」(一般臨床家、口腔科医のための口腔外科ハンドマニュアル '06)
2006/04	「抗加齢医療—診断と治療の最前線 歯科医からのアンチエイジング・アドバイス」(モダンフィジシャン、2006.4)
2006/04	「特集アンチエイジング 口腔から考えるアンチエイジング」(Medical Science Digest 4月臨時増刊号、vol.32 No.5 2006 通巻410号)
2006/05	「いま見直すQOLを重視した医療の役割～生活の質を重視した在宅医療の実現～」(高齢期のQOL維持における感覚器の役割) (2) (Home Care MEDICINE、2006Spring)
2006/03	「⑥ドライマウスは老化のサイン—生活習慣病の兆候—」(デンタルハイジーン)
2006/03	「聞いてみよう 薬剤師の知りたいこと60 ドライマウス」(調剤と情報)
2006/03	「口から始めるアンチエイジング歯科医学6 ドライマウスは老化のサイン—生活習慣病の徴候—」(デンタルハイジーン)
2006/02/07	「女性の医学最前線 ドライマウス」(婦人公論)
2006/02	「⑤アンチエイジングのための食事療法」(デンタルハイジーン)
2006/01/15	「ドライマウスについて」(シェーグレンの会会報)
2006/01	「いま見直すQOLを重視した医療の役割～生活の質を重視した在宅医療の実現～」(高齢期のQOL維持における感覚器の役割) (1) (Home Care MEDICINE、2006Winter)
2006/01	「④フェイスリフトトレーニングの実践」(デンタルハイジーン)
2006/01	「アンチエイジング医学と歯科医療」(歯界展望)
2006	「7. 免疫とアンチエイジング医学」(OPHTHALMIC FORESIGHT、Vol.11 No.4)
2005/12/22	「女のカラダ SOS 口内の乾き」(女性セブン)
2005/12/09	「名医が診断 人に言えない悩みも解決 気になる病のQ&A—重金属汚染—」(週刊ポスト 12/9)
2005/12	「③噛むことが若さを保つ」(デンタルハイジーン)
2005/12	「口腔乾燥化から考えるシェーグレン症候群～膠原病内科・歯科の立場から～」(医業ジャーナル)
2005/12	「旬なキーワード 20連発 ドライマウス」(旬なテーマ)
2005/12	「ドライマウス臨床講座 第6回 ドライマウス患者への対応 筋機能療法を応用したドライマウス改善の試み②」(歯科衛生士)
2005/11/29	「ドライマウス(口腔乾燥症)～唾液の重要性～」(kewpie news)
2005/11	「②口の老化は心身の老化—唾液はアンチエイジングに欠かせない!—」(デンタルハイジーン)
2005/11	「ドライマウス臨床講座 第5回 ドライマウス患者への対応 筋機能療法を応用したドライマウス改善の試み(1)」(歯科衛生士)
2005/11	「50歳から気をつけたい病気 レイムス」(P.P.O)
2005/10/22	「アンチエイジングの答は口にあり」(婦人公論)
2005/10	「いま見直す QOL を重視した医療の役割 ～生活の質を重視した在宅医療の実現を～」(Home Care MEDICINE、2005Autumn)
2005/10	「口からはじめる抗加齢医学 —歯科衛生士の新たな役割—」(歯科衛生士)
2005/10	「重金属の害から身を守る- 歯科用金属との関連について -」(アンチ・エイジング歯科医学—日本抗加齢医学会雑誌、vol.1 No.2)
2005/10	「口の老化は心身の老化 —抗加齢歯科医学の実践—」(アンチ・エイジング歯科医学—日本抗加齢医学会雑誌、vol.1 No.1)
2005/10	「①歯科衛生士の新たな職域 —アンチエイジング外来での取り組み—」(デンタルハイジーン)
2005/10	「ドライマウス臨床講座 第4回 ドライマウス患者への対応(2)原因療法」(歯科衛生士)
2005/09	「ドライマウス臨床講座 第3回 ドライマウス患者への対応(1)原因療法」(歯科衛生士)
2005/08	「唾液からはじまるアンチエイジング ドライマウス対策教えます」(歯医者の待合室)
2005/08	「ドライマウス臨床講座 第2回 ドライマウスの診査・検査」(歯科衛生士)
2005/07	「ドライマウス臨床講座 第1回 ドライマウスの現状」(歯科衛生士)
2005/06/30	「噛むアンチエイジング」(香る生活 Vol.9.)
2005/06/30	「"口内環境"UP大作戦!!」(日経ヘルス 特別編集号「健康情報」2008年春 第31号)
2005/06/30	「ドライマウスの原因と対処法」(月刊保体連 No.962)
2005/06/29	「ドライマウス」(TMDC MATE、No.245)
2005/06/29	「特集 口の中のトラブル」(月刊ベターホーム)
2005/06/29	「水でキレイに! 水分不足で起きる「ドライマウス症候群」とは何?」(Hanako)
2005/06/28	「ドライマウス」(笑顔)
2005/06/27	「ドライマウスと口腔ケア」(難病と在宅ケア Vol.11 No.3)